

第 82 回国民スポーツ大会・
第 27 回全国障害者スポーツ大会
長野県準備委員会

第 2 回式典・会場専門委員会



第82回国民スポーツ大会・
第27回全国障害者スポーツ大会
マスコットキャラクター
長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

令和 5 年 9 月 14 日（木）

長野県スポーツ会館 2 階会議室・オンライン会議
併用開催

式典・会場専門委員会 委員

(委員は順不同、敬称略)

職名	氏名	所属・役職等
委員長	平野 吉直	国立大学法人信州大学 理事(教学担当)・副学長
副委員長	築山 秀夫	公立大学法人長野県立大学グローバルマネジメント学部 教授
委員	北村 明子	国立大学法人信州大学人文学部 教授
〃	伊東 一雄	公益財団法人長野県スポーツ協会 事務局長
〃	永原 龍一	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会 常務理事兼事務局長
〃	竹中 雅幸	長野県レクリエーション協会 会長
〃	宮澤 俊樹	長野県小学校長会 幹事長
〃	牛越 雅紀	長野県中学校長会 幹事長
〃	鳥谷越 浩子	長野県高等学校長会 副会長(中信地区会長)
〃	佐藤 純也	長野県私立中学高等学校協会 理事
〃	小松 恭子	長野県特別支援学校校長会 幹事長
〃	中村 雅夫	長野県合唱連盟 理事長
〃	武井 淳一	長野県吹奏楽連盟 副会長 長野県高等学校文化連盟吹奏楽部会 会長
〃	込山 善仁	長野県警察音楽隊 楽長
〃	山本 晋司	一般財団法人長野県文化振興事業団 常務理事
〃	竹之下 茂	日本放送協会長野放送局 コンテンツセンター長
〃	山本 茂	松本市スポーツ本部スポーツ事業推進課 課長
〃	土屋 秀夫	長野県警察本部警備部警備第二課 首席参事官兼課長
〃	伊藤 博隆	長野県県民文化部文化政策課 課長
〃	藤木 秀明	長野県健康福祉部障がい者支援課 課長
〃	加藤 浩	長野県教育委員会事務局義務教育課 参事兼課長
〃	志津 千代子	長野県教育委員会事務局高校教育課 参事兼課長
〃	酒井 和幸	長野県教育委員会事務局特別支援教育課 課長

計 23名

第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会
長野県準備委員会 第2回式典・会場専門委員会 次第

日時：令和5年9月14日（木）10:30～11:30

場所：長野県スポーツ会館 2階会議室

※オンライン会議併用

1 開会

2 委員長あいさつ

3 報告事項

- (1) 式典・会場専門委員会委員の変更について
- (2) 準備委員会における決定事項について
- (3) 第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会 開催地の内定について
- (4) 式典に関するレポートについて

4 審議事項

- (1) 第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会長野県準備委員会式典・会場専門委員会部会設置要項（案）について

5 閉会

報告事項

式典・会場専門委員会委員の変更について

(委員は順不同、敬称略)

職名	新任者	旧任者	所属・役職等
委員	宮澤 俊樹	桂本 和弘	長野県小学校長会 幹事長
〃	牛越 雅紀	篠原 謙治	長野県中学校長会 幹事長
〃	鳥谷越 浩子	石川 裕之	長野県高等学校長会 副会長（中信地区会長）
〃	小松 恭子	浦野 憲一郎	長野県特別支援学校校長会 幹事長
〃	武井 淳一	水野 英明	長野県吹奏楽連盟 副会長 長野県高等学校文化連盟吹奏楽部会 会長
〃	竹之下 茂	関根 保夫	日本放送協会長野放送局 コンテンツセンター長
〃	山本 茂	大島 良司	松本市スポーツ本部スポーツ事業推進課 課長
〃	伊藤 博隆	岩下 秀樹	長野県県民文化部文化政策課 課長
〃	志津 千代子	服部 靖之	長野県教育委員会事務局高校教育課 参事兼課長

準備委員会における決定事項について

会議・開催日	決定事項	所掌専門委員会					
		総務 企画	競技 運営	広報 県民	宿泊 衛生	輸送 交通	式典 会場
第9回常任委員会 令和5年2月8日 オンライン会議	第82回国民スポーツ大会 競技会場地市町村第8次選定	○					
	第82回国民スポーツ大会 開催予定施設の変更	○					
	第82回国民スポーツ大会・ 第27回全国障害者スポーツ大会 宿泊基本方針				○		
	第82回国民スポーツ大会・ 第27回全国障害者スポーツ大会 医事・衛生基本方針				○		
	第82回国民スポーツ大会・ 第27回全国障害者スポーツ大会 輸送・交通基本方針					○	
	第82回国民スポーツ大会・ 第27回全国障害者スポーツ大会 式典基本方針						○
	第82回国民スポーツ大会・ 第27回全国障害者スポーツ大会 長野県準備委員会専門委員会規 程の改正						
	第82回国民スポーツ大会 県及び会場地市町村の業務分 担・経費負担細目の改正	○					
第10回常任委員会 令和5年5月31日 オンライン会議	第82回国民スポーツ大会・ 第27回全国障害者スポーツ大会 開催基本構想	○					
	第82回国民スポーツ大会 種別の変更	○					
	第82回国民スポーツ大会 公開競技会場地市町村第1次選 定	○					

	第 82 回国民スポーツ大会・ 第 27 回全国障害者スポーツ大会 長野県準備委員会専門委員会規 程の改正						
第 7 回総会 令和 5 年 5 月 31 日 オンライン会議	令和 4 年度事業報告						
	令和 4 年度収支決算						
	令和 5 年度事業計画						
	令和 5 年度収支予算						
	令和 5 年度暫定収支予算（会長 専決処分）						

開催基本構想の策定にあたって

- 令和10年に、第82回国民スポーツ大会と第27回全国障害者スポーツ大会を長野県で開催
- 大会を意義あるものとするため、準備（実行）委員会をはじめ、構成団体や大会を意義ある様々な人が、大会の目標を共有し、その実現のため、開催に向けた取組や開催気運を活用した取組を進めていく必要
- 開催基本構想は、開催基本方針に基づき、実施目標の実現に向けた取組の方向性を明らかにするもの
- 準備（実行）委員会では、専門委員会などにおいて、構想を踏まえた方針や計画、取組を具現化

国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会について

- 国民スポーツ大会とは
 - 毎年開催される国内最大の国民スポーツの祭典
- 全国障害者スポーツ大会とは
 - 毎年開催される障がい者スポーツの全国的な祭典
- 長野県における大会開催の意義
 - 県民に夢や希望を与え、スポーツに親しみ環境づくりや健康増進、地域の魅力向上につながる
 - 障がいに対する理解を深める機会が生まれ、障がいのある人も共に生きたる長野県づくりにつながる
 - 人々の交流の輪が広がるとともに、本県の魅力発信、観光や経済活動への効果波及が期待される

基本方針	実施目標	取組推進にあたっての共通視点	取組の方向	主な取組
1 スポーツで長野県を元気にする大会	SDGsを意識した取組の推進	3 持続可能な開発目標 8 雇用と経済成長 11 持続可能な都市とコミュニティ	● スポーツによる健康長寿世界一信州の実現 ● スポーツが旅の目的となる観光地・地域づくり	● ライフステージに応じたスポーツ活動の促進 ● 家庭や職場で簡単にできるスポーツの普及 ● 県内各地におけるスポーツ大会や合宿の誘致促進 ● 大会の競技会開催地のスポーツの「聖地」化
2 スポーツの振興を支える好循環を創出する大会	〇ゼロカーボンの推進 〇大会運営のDX	4 持続可能な消費 10 持続可能な産業と高品質な雇用 17 持続可能な都市とコミュニティ	● 地域で育む未来のアスリート ● アスリートの人材確保 ● 障がい者スポーツ選手の発掘及び育成	● 少年選手の計画的な発掘及び育成・強化 ● 県内で活動するプロスポーツ選手やトップアスリートとの交流機会の確保 ● 「長野県競技力向上対策本部」を中心とした取組の推進 ● 選手の県内就職や競技活動を継続できる環境づくり ● 選手をはじめ、指導者・スタッフの発掘及び育成 ● 全国大会や国際大会への出場を視野に入れた選手の育成・強化
3 スポーツで共生社会づくりを加速する大会	〇公正さや多様性を踏まえた取組の推進 〇信州の強みや地域の個性の活用	4 持続可能な消費 10 持続可能な産業と高品質な雇用	● スポーツを支える人材の育成 ● 国スポ・全障スポの一体的な開催 ● 障がい者スポーツと一般スポーツの融合の推進 ● スポーツで多様性を尊重する共生社会づくり	● 指導者の育成・確保や競技役員等の養成、活躍の場の拡大及び充実 ● スポーツボランティアの育成や活動支援 ● 両大会の開催準備や運営の一体的な推進 ● ハリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した大会運営 ● 障がい者スポーツの普及と、障がい者が身近な地域でスポーツを楽しめる環境づくり ● オリンピック・パラリンピック代表選手との交流機会の確保
4 スポーツの環境づくりを推進する大会	〇長野冬季オリパラのレガシーを活かし、未来へつなぐ	3 持続可能な開発目標 10 持続可能な産業と高品質な雇用 11 持続可能な都市とコミュニティ	● いつでも・どこでもスポーツに取組める環境づくり ● 開催地実施競技種目の普及	● 障がい者スポーツの紹介や楽しみ方の情報発信 ● 県民が広く参加できるスポーツ教室やスポーツイベントの開催 ● 大会開催に必要な競技施設や競技用具の整備などを通じたスポーツ環境の充実
5 スポーツが長野県のファンを増やす大会	〇安全・安心・持続可能な大会運営	4 持続可能な消費 8 雇用と経済成長 17 持続可能な都市とコミュニティ	● 県民参加のおもてなし ● 大会を通じた長野県の魅力発信	● 多くの県民が様々な形で自発的に参加する、大会の県民運動の展開 ● 障がいのある無や年齢、性別、国籍などにかかわらず、大会に参加する誰もが満足できる温かいおもてなし ● 地域資源を活用したおもてなし ● 競技観戦以外にも楽しめる文化プログラムの展開

「スポーツを通じた元氣な長野県づくり」の実現

第 82 回国民スポーツ大会 公開競技 会場地市町村第 1 次選定

No.	競技名	種別	市町村名	開催予定施設
1	綱引	全種別	岡谷市	岡谷市民総合体育館 (スワンドーム)
2	武術太極拳	全種別	佐久市	長野県立武道館
3	パワーリフティング	全種別	白馬村	白馬村多目的研修集会施設
4	バウンドテニス	全種別	軽井沢町	軽井沢風越公園総合体育館
5	スポーツチャンバラ	全種別	山ノ内町	山ノ内町立山ノ内中学校体育館
6	ダンススポーツ	全種別	安曇野市	安曇野市総合体育館 (ANCアリーナ)

第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会 開催地の内定について

1 概要

令和 10 年の第 82 回国民スポーツ大会（冬季大会・本大会）について、令和 5 年 6 月 1 日付けで、(公財) 日本スポーツ協会会長及び文部科学大臣あてに「開催申請書」を提出した。

この申請に基づき、令和 5 年 7 月 20 日の (公財) 日本スポーツ協会理事会において、長野県が、令和 10 年開催の第 82 回国民スポーツ大会（冬季大会・本大会）の開催地として内定された。

また、第 82 回国民スポーツ大会の内定により、同年の第 27 回全国障害者スポーツ大会の開催地としても内定となった。

2 大会開催までの主なスケジュール（開催手続関係）

年 月		内 容
平成 29 年	7 月	開催地として内々定
令和 5 年	7 月	開催地として内定
令和 7 年		(公財) 日本スポーツ協会及びスポーツ庁による 総合視察
		開催地として決定
令和 10 年		第 82 回国民スポーツ大会（冬季大会・本大会）及び 第 27 回全国障害者スポーツ大会の開催

【参考】

(公財) 日本スポーツ協会「国民体育大会開催基準要項」(抜粋)

14 大会開催の申請

- (1) 開催申請書提出順序了解県は、都道府県体協会会長、都道府県知事及び教育委員会教育長が連署の上、日本スポーツ協会会長及び文部科学大臣宛に開催申請書を提出するものとする。

～ (中略) ～

15 大会開催地の内定及び決定

- (1) 日本スポーツ協会は、前項の申請に基づいて調査審議の上、文部科学省と協議し、原則として大会開催年の 5 年前の年の 9 月末日までに大会開催地を内定する。

(公財) 日本パラスポーツ協会「全国障害者スポーツ大会開催基準要綱」(抜粋)

16. 大会開催地の内定及び決定

大会の開催地については、国民体育大会開催基準要項に規定する国民体育大会の開催地の内定及び決定の時をもって、それぞれ内定及び決定をしたものとみなす。

第5回 JSP0 国スポ発第37号
5ス庁第756号

国民スポーツ大会開催内定書

長野県知事 阿部守一 様

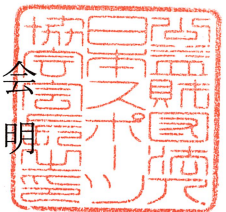
長野県教育委員会
教育長 内堀繁利 様

公益財団法人 長野県スポーツ協会
会長 阿部守一 様

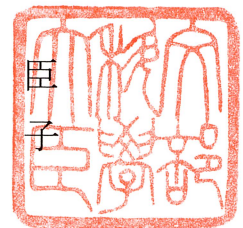
令和10年開催の第82回国民スポーツ大会冬季大会・本大会の開催地として貴県を内定いたします。

令和5年7月20日

公益財団法人 日本スポーツ協会
会長 遠藤利明



文部科学大臣
永岡桂



第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会

式典に関するレポート



第82回国民スポーツ大会・
第27回全国障害者スポーツ大会
マスケットキャラクター
長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会長野県準備員会事務局
(長野県教育委員会事務局スポーツ課国民スポーツ大会準備室)

目次

1	式典に関するレポート作成にあたって	P 1
2	第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会の概要	P 3
3	先催県の事例	P 8
	(1) 式典の概要	P 8
	(2) 総合開会式・開会式	P 16
	(3) 総合閉会式・閉会式	P 19
	(4) 式典演技	P 22
	(5) 式典音楽	P 25
	(6) 各競技会の表彰式	P 29
	(7) 炬火イベント	P 31
	(8) 特徴的な取組の実績や計画	P 33
4	今後の進め方	P 34
	(1) 式典のあり方検討の進め方	P 34
	(2) 令和6年度までのスケジュールのイメージ	P 34
5	参考資料	別冊
	(1) 式典・会場に係る今後のスケジュール	
	(2) 会場地市町村マップ	
	(3) 開催基本構想	
	(4) 式典基本方針	

1 式典に関するレポート作成にあたって



国民体育大会
マーク



全国障害者スポーツ大会
シンボルマーク

国民スポーツ大会は、国民体育大会（国体）の名称で、昭和21年（1946年）の第1回大会以来、国内最大の国民スポーツの祭典として広く親しまれ、国民の健康増進と体力向上、地方スポーツの推進と地方文化の発展などに寄与してきました。

長野県では、昭和53年（1978年）に「日本の屋根に手をつなぐ」をスローガンに、第33回国民体育大会「やまびこ国体」を、冬・夏・秋季の全シーズンを通じて同一県で行う完全国体として開催しました。

また、同年には、「さわやかに あたたかく ひたむきに」をスローガンに、第14回全国身体障害者スポーツ大会（やまびこ大会）を開催しました。

「やまびこ国体」「やまびこ大会」の成功は県民に自信と誇りをもたらし、本県のスポーツ振興の大きな礎となるとともに、スポーツの感動を世界に発信した平成10年（1998年）開催の長野冬季オリンピック・パラリンピックの原動力にもなりました。

そして、前回開催から50年目、長野冬季オリンピック・パラリンピックから30年目の節目の年となる令和10年（2028年）に、第82回国民スポーツ大会と第27回全国障害者スポーツ大会を長野県で開催します。

両大会を開催する上では、「スポーツを通じた元気な長野県づくり」の実現に向けて、障がいのある人もない人も楽しめるスポーツの機会拡大による共生社会づくりの加速化や、信州の地域資源を活用した県民参加のおもてなしの展開や本県の魅力発信による長野県のファンづくりなど、両大会を決して一過性のイベントに終わらせることなく、その後の長野県の発展につながる大会とすることを目指しています。

総合開・閉会式をはじめとする式典は、全国から集う多くの役員・選手団や観覧者をおもてなしの心で温かく迎え、本県の価値や魅力を発信する絶好の機会です。こうした機会を最大限生かすべく、「温故知新」の考え方を基調とし、先催県が大切に受け継いできた式典の伝統や歴史を学び、尊重しながら、本県ならではの式典のあり方を検討するため、この「式典に関するレポート」を作成します。

(参考) 式典に関するレポートに係る模式図



国民体育大会
マーク



全国障害者スポーツ大会
シンボルマーク

式典に関するレポート

<内容>

- 信州やまなみ国スポ・全障スポの概要
- 先催県の事例
- 今後の進め方

<別冊>

- 開催基本構想
- 式典基本方針

参考

式典基本計画 (R6)

- 長野県の式典のあり方
(開・閉会式、式典音楽、式典演技等の基本的な考え方)

開・閉会式会場等整備 基本計画 (R7)

- 長野県の開・閉会式会場等の整備のあり方
(会場装飾、ゾーニング・動線等)

具体化

式典運営

会場整備

炬火

式典音楽

式典演技

2 第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会の概要



令和10年（2028年）に長野県で開催予定

*本県での開催は、昭和53年（1978年）の「やまびこ国体」「やまびこ大会」以来50年ぶり

国民スポーツ大会 （国スポ）

冬季大会 令和10年1月～2月（5日間以内）
本大会 令和10年9月～10月（11日間以内）

都道府県持ち回りで毎年開催されている、国内最大の国民スポーツの祭典。都道府県対抗で、天皇杯（男女総合成績第1位）と皇后杯（女子総合成績第1位）の獲得を目指して、熱い戦いが繰り広げられる。令和4年の栃木国体本大会では、選手・監督72,750人、大会関係者102,827人、観覧者216,616人、合計392,193人（いずれも延べ人数）が参加した。

〔コロナ以前に開催された令和元年の茨城国体本大会では、選手・監督94,411人、大会関係者125,380人、観覧者551,397人、合計771,188人が参加（いずれも延べ人数）〕

全国障害者スポーツ大会 （全障スポ）

令和10年10月（3日間以内）

国民スポーツ大会の直後に開催される、国内最大の障がい者スポーツの祭典。障がいのある選手が、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的としている。令和4年の栃木大会では、選手・監督23,489人、大会関係者26,695人、観覧者13,749人、合計63,933人（いずれも延べ人数）が参加した。

〔コロナ以前に開催された平成30年の福井大会では、選手・監督24,201人、大会関係者32,473人、観覧者42,939人、合計99,613人が参加（いずれも延べ人数）〕

愛称 信州やまなみ国スポ・全障スポ

<趣旨>

日本の屋根と呼ばれ、多くの美しい山々を有する長野県。大会に関わるすべての人が、信州の山脈のようにつらなり、手を取り合い、未来へとつながる大会を目指します。

スローガン 行こう。それぞれの頂へ。

<趣旨>

頂点を目指すだけが大会の意味ではなく、それぞれにそれぞれが想うゴールがあります。選手や観戦する人、ボランティアなど、大会に関わるすべての人が、自分の思い描く頂（いただき）を目指す様子をイメージしています。



マスコットキャラクター

長野県PRキャラクター『アルクマ』



第82回国民スポーツ大会・
第27回全国障害者スポーツ大会
マスコットキャラクター
長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

ロゴデザイン

行こう。それぞれの頂へ。



信州やまなみ国スポ・全障スポ

第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会

<説明>

信州の自然をイメージした配色や、文字の一部に「葉」と「ライチョウ」をレイアウトすることで長野県らしさを表現し、全体的に親しみやすく、読みやすいロゴデザインにしています。

さらに、「やまなみ」を立体的に表現したデザインで、それぞれの頂が光輝く姿を、また、年号の0（ゼロ）にハート形のリングをあしらったデザインを用いて、手を取り合い、未来へとつながる大会を想起させる構成としています。

2 第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会の概要



国民スポーツ大会 実施競技

正式競技

冬季大会 3競技
本大会 37競技

スキー、スケート、アイスホッケー（冬季大会）

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ローイング、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、クレール射撃、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン（本大会）

特別競技

1競技

高等学校野球

公開競技

9競技

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック、スポーツチャンバラ、ダンススポーツ

デモンストラションスポーツ

未定

（例）マレットゴルフ、カーリング、ドッジボール、ウォーキング、マラソン等

全国障害者スポーツ大会 実施競技

正式競技

14競技

陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ボウリング、ボッチャ（個人競技）
バスケットボール、車いすバスケットボール、ソフトボール、グラウンドソフトボール、フットソフトボール、バレーボール、サッカー（団体競技）

オープン競技

未定

（例）スポーツウエルネス吹矢、卓球バレー等

2 第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会の概要



開・閉会式の会場

長野県松本平広域公園陸上競技場（松本市大字今井）

計画配置図



既存の陸上競技場を除却した上で、新たな陸上競技場を整備（R 8年度から供用開始予定）

建物概要	
構造	RC造 一部S造
階数	地上3階、地下1階／地上1階（スポーツ練習場）
施設仕様	走路、跳躍競技施設、投擲競技施設、障害物競走施設、インフィールド、雨天走路、屋内練習場、フィールド照明、大型映像装置
収容人数	15,050席（メインスタンド7,050、バックスタンド2,000、南サイドスタンド3,100、南アルプススタンド1,300、北芝生席1,500、北ベンチスタンド100）
駐車台数	616台（既存駐車場含む）



※開・閉会式では会場周辺に、選手・監督整列所、選手・監督控所、式典出演者控所及び式典音楽隊控所のほか、おもてなし広場を配置。

出典：松本平広域公園陸上競技場整備事業基本設計業務 基本設計図書 概要版（R3.7）

2 第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会の概要



信州やまなみ国スポ・全障スポの式典は、開・閉会式、各競技会の表彰式、炬火イベントで構成

総合開会式・開会式



国スポ・全障スポそれぞれの大会初日に行われ、大会の開催を宣言し、機運を高める最大のイベント。選手団・出演者・スタッフ・観客等、計約5万人が参加する。県内の団体による多彩なパフォーマンス等で構成されるオープニングプログラム、天皇・皇后両陛下御臨席のもと行われる県の魅力を発信する式典演技、式典音楽隊の演奏のもと行われる役員・選手団入場行進や炬火点火等がある式典などが行われる。



2022年栃木国体（式典演技）



2022年栃木全障スポ（役員・選手団入場行進）

総合閉会式・閉会式



国スポ・全障スポそれぞれの最終日に行われ、国スポにおいては男女総合優勝都道府県（天皇杯）と女子総合優勝都道府県（皇后杯）の発表が行われる。選手団・出演者・スタッフ・観客等、計約3万人が参加する。オープニングプログラムや大会映像のハイライトの放送、両大会のフィナーレを飾るファイナルステージなどがあり、式典は、皇族の御臨席のもと行われる。



2022年栃木国体（炬火分火）



2022年栃木全障スポ

各競技会の表彰式



各会場で競技の成績表彰を行う。県が基準となる要項を策定し、各競技会を開催する会場地市町村が実施する。

炬火イベント



県内の各市町村が地域の伝統や文化にちなんだ方式で独自に炬火を採火・集火し、各市町村の火を一つに集火して、「県の炬火」として炬火台に点火する、大会の気運を盛り上げるイベント。



2022年栃木国体（市町炬火集火式）

3 先催県の事例 (1) 式典の概要 (国スポ総合開会式の次第)



- 国スポ総合開会式は、オープニングプログラム、式典(前)演技、役員・選手団入退場、式典及びエンディングプログラムで構成
- 役員・選手団の参集範囲は、前半日程開催競技のうち、「宿舎から総合開会式場までに要する時間が80分未満」である地域とすることが慣例 (参集範囲の80分は、宿舎～(計画バス)～指定駐車場～総合開会式集合場所の合計時間をいう)

2019年茨城国体

時刻	次第
6:00	実施態度決定
9:00	開場
11:00	オープニングプログラム開始
12:10	入場締切
12:50	オープニングプログラム終了
12:59	天皇皇后両陛下御着席
13:00	式典前演技開始
13:30	式典前演技終了
13:31	天皇皇后両陛下御退席
13:50	天皇皇后両陛下御着席
13:51	開式通告
13:53	役員・選手団入場開始
14:19	役員・選手団整列完了
14:20	開会宣言
14:22	国旗儀礼
14:24	大会旗・日本スポーツ協会旗儀礼
14:25	茨城県旗・ひたちなか市旗儀礼
14:27	天皇杯・皇后杯返還
14:30	大会会長あいさつ
14:33	文部科学大臣あいさつ
14:36	天皇陛下お言葉
14:39	炬火入場・点火
14:45	選手代表宣誓
14:47	閉式通告
14:48	天皇皇后両陛下御退席
14:49	役員・選手団退場開始
15:04	役員・選手団退場完了
15:05	エンディングプログラム開始
15:35	エンディングプログラム終了
15:36	終了

9:00 役員・選手団受付開始
11:00 役員・選手団受付終了
12:40 役員・選手団集合開始
@補助競技場
13:10 役員・選手団移動開始
13:40 役員・選手団入場準備完了@第1ゲート

国体開催基準要項で定める式典(原則60分以内)

国体の式典では、開式通告後、航空自衛隊が「ブルーインパルス」の祝賀飛行を実施。

役員・選手団の参列時間*
2時間24分
*集合開始から退場までの時間

2022年栃木国体

時刻	次第
6:00	実施態度決定
10:00	開場
12:45	オープニングプログラム開始
13:25	入場締切
14:05	オープニングプログラム終了
14:14	天皇皇后両陛下御着席
14:15	開式通告
14:17	役員・選手団入場開始
14:40	役員・選手団整列完了
14:41	開会宣言
14:44	国旗儀礼
14:46	大会旗・日本スポーツ協会旗儀礼
14:47	栃木県旗・宇都宮市旗儀礼
14:49	天皇杯・皇后杯返還
14:52	大会会長あいさつ
14:55	文部科学大臣あいさつ
14:58	天皇陛下お言葉
15:01	炬火入場・点火
15:06	選手代表宣誓
15:09	閉式通告
15:10	天皇皇后両陛下御退席
15:24	天皇皇后両陛下御着席
15:25	式典演技開始
15:47	式典演技終了
15:48	天皇皇后両陛下御退席
15:49	役員・選手団退場開始
16:04	役員・選手団退場完了
16:05	エンディングプログラム開始
16:34	エンディングプログラム終了
16:35	終了

10:00 役員・選手団受付開始
12:00 役員・選手団受付終了
12:50 役員・選手団集合開始
@第2陸上競技場
13:20 役員・選手団集合完了
@第2陸上競技場
13:25 役員・選手団移動開始
14:05 役員・選手団入場準備完了@第1ゲート

Point

役員・選手団入場後、着席して参加する“とちぎスタイル”を国体で初めて実現。
これまで女性が務めていた都道府県名プラカードを性別を問わずに選出。

Point

次第や演技構成を工夫し、国体で初めて役員・選手団が式典演技を観覧。

役員・選手団の参列時間
3時間14分

2023年鹿児島国体

時刻	次第
6:00	実施態度決定
10:30	開場
12:30	オープニングプログラム開始
13:40	入場締切
14:20	オープニングプログラム終了
14:30	皇室御着席
14:31	式典前演技開始
15:01	式典前演技終了
15:02	皇室御退席
15:22	皇室御着席
15:23	開式通告
15:25	役員・選手団入場開始
15:50	役員・選手団整列完了
15:51	開会宣言
15:54	国旗儀礼
15:56	大会旗・日本スポーツ協会旗儀礼
15:57	鹿児島県旗・鹿児島市旗儀礼
15:59	天皇杯・皇后杯返還
16:02	大会会長あいさつ
16:05	文部科学大臣あいさつ
16:08	皇室お言葉
16:11	炬火入場・点火
16:16	選手代表宣誓
16:18	閉式通告
16:19	皇室御退席
16:20	選手団激励メッセージ開始
16:35	選手団激励メッセージ終了
16:35	役員・選手団退場開始
16:45	役員・選手団退場完了
16:46	エンディング開始
16:58	エンディング終了
16:59	終了

11:00 役員・選手団受付開始
13:00 役員・選手団受付終了
14:10 役員・選手団集合開始
@補助競技場
14:41 役員・選手団集合完了・移動開始
15:12 役員・選手団入場準備完了@ゲート

Point

鹿児島県ゆかりの著名人等からの激励や、長洲剛氏の歌による選手団激励メッセージを実施。

役員・選手団の参列時間
2時間35分

【参考：国スポ(本大会正式・特別競技)会場地市町村と松本平広域公園陸上競技場(★)の位置図】



庁舎から陸上競技場までの所要時間が80分以内の市町村
(23/28市町村)

＜所要時間の算出方法＞

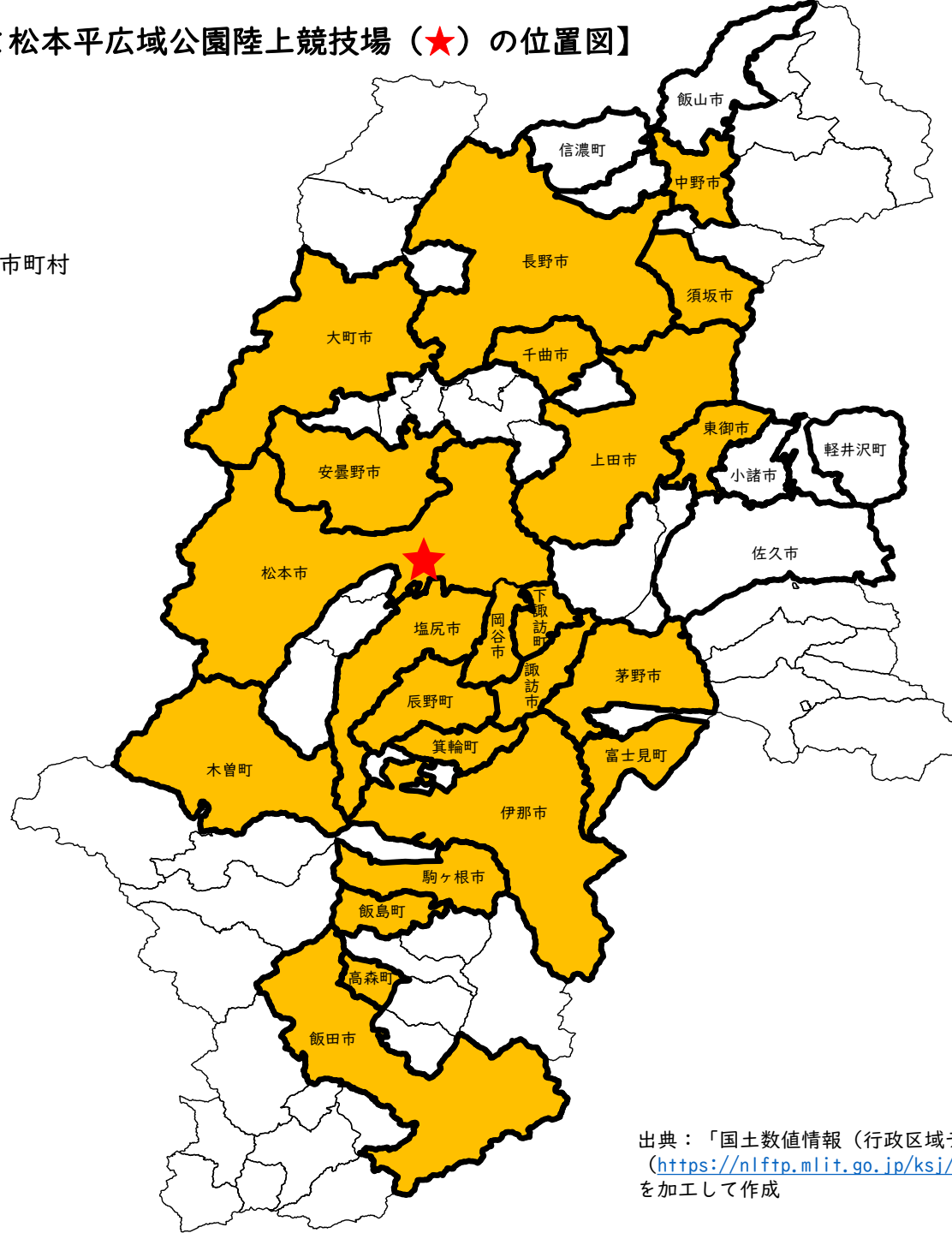
次の条件を設定し、Googleマップで検索。

複数ルートがある場合、最短時間のルートを採用。

- ・移動日 令和6年10月7日(土)※1
- ・移動手段 車
- ・到着時刻 午前10時※2

※1) 鹿児島国体総合開会式の開催日

※2) 鹿児島国体総合開会式の役員・選手団受付開始の1時間前



出典：「国土数値情報(行政区域データ)」(国土交通省)
(https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v2_4.html)
を加工して作成

3 先催県の事例 (1) 式典の概要 (国スポ総合閉会式の次第)



● 国スポ総合閉会式は、オープニングプログラム、役員・選手団入退場及び式典で構成

2019年茨城国体

時刻	次第
7:00	実施態度決定
(12:00)	(陸上・バスケボール競技終了)
12:20	開場
13:00	オープニングプログラム開始
13:45	オープニングプログラム終了
13:59	皇族御着席
14:00	開式通告
14:01	役員・選手団入場開始
14:11	役員・選手団整列完了
14:12	成績発表
14:17	表彰状授与
14:27	天皇杯・皇后杯授与
14:31	大会会長あいさつ
14:34	スポーツ庁長官あいさつ
14:37	茨城県旗・ひたちなか市旗降納
14:39	大会旗・日本スポーツ協会旗降納
14:40	国旗降納
14:42	炬火分火・納火
14:46	国体旗引継
14:48	鹿児島県旗掲揚
14:50	閉会宣言
14:51	閉式通告
14:52	皇族御退席
14:53	役員・選手団退場開始
15:06	役員・選手団退場完了
15:07	終了

12:20 役員・選手団受付開始
12:50 役員・選手団受付終了
13:00 役員・選手団集合開始
@補助競技場
13:25 役員・選手団移動開始
13:50 役員・選手団入場準備完了@第1ゲート

国体開催基準要項
で定める式典
(原則60分以内)

役員・選手団の参集時間※
2時間6分
※集合開始から退場までの時間

2022年栃木国体

時刻	次第
5:00	実施態度決定
8:00	開場
9:00	オープニングプログラム開始
9:45	オープニングプログラム終了
9:59	皇族御着席
10:00	開式通告
10:01	役員・選手団入場開始
10:11	役員・選手団整列完了
10:12	成績発表
10:17	表彰状授与
10:27	天皇杯・皇后杯授与
10:31	大会会長あいさつ
10:34	スポーツ庁長官あいさつ
10:37	栃木県旗・宇都宮市旗降納
10:39	大会旗・日本スポーツ協会旗降納
10:40	国旗降納
10:42	炬火分火・納火
10:46	国体旗引継
10:48	鹿児島県旗掲揚
10:50	閉会宣言
10:51	閉式通告
10:52	皇族御退席
10:53	役員・選手団退場開始
11:09	役員・選手団退場完了
11:10	終了

8:00 役員・選手団受付開始
8:50 役員・選手団受付終了
8:55 役員・選手団集合開始
@第2陸上競技場
9:20 役員・選手団集合完了
@第2陸上競技場
9:25 役員・選手団
第1ゲートへ移動開始
9:50 役員・選手団入場準備完了@第1ゲート

役員・選手団の参集時間
2時間14分

2023年鹿児島国体

時刻	次第
6:00	実施態度決定
(12:00)	(陸上競技終了)
12:15	開場
13:00	オープニングプログラム開始
13:45	オープニングプログラム終了
13:59	皇族御着席
14:00	開式通告
14:01	役員・選手団入場開始
14:11	役員・選手団整列完了
14:12	成績発表
14:17	表彰状授与
14:27	天皇杯・皇后杯授与
14:31	大会会長あいさつ
14:34	スポーツ庁長官あいさつ
14:37	鹿児島県旗・鹿児島市旗降納
14:39	大会旗・日本スポーツ協会旗降納
14:40	国旗降納
14:42	炬火分火・納火
14:46	国体旗返還・国スポ旗授与
14:48	佐賀県旗掲揚
14:50	閉会宣言
14:51	閉式通告
14:52	皇族御退席
14:53	役員・選手団退場開始
15:06	役員・選手団退場完了
15:07	終了

12:20 役員・選手団受付開始
13:00 役員・選手団受付終了
・集合開始
13:25 役員・選手団集合完了
・整列開始
13:59 役員・選手団整列完了

役員・選手団の参集時間
2時間6分

※栃木県は、総合閉会式の前日までに全ての競技が終了。

※役員・選手団の参集範囲は、いずれの県も、基準は設けていない模様。
そのため、総合閉会式への参加は各都道府県の任意となるが、例年、大会最終日に競技を行う役員・選手団を中心に参加している模様。

3 先催県の事例 (1) 式典の概要 (全障スポ開会式の次第)



● 全障スポ開会式は、オープニングプログラム、役員・選手団入退場、式典、歓迎(式典)演技及びエンディングプログラムで構成

2018年福井大会

時刻	次第
5:00	実施態度決定
7:00	開場
8:50	歓迎県民イベント開始
9:10	入場締切
9:50	歓迎県民イベント終了
9:59	皇族御着席
10:00	開式通告
10:01	役員・選手団入場開始
10:36	役員・選手団整列完了
10:37	開会宣言・大会会長あいさつ
10:40	国旗掲揚
10:42	大会旗掲揚
10:44	福井県旗・福井市旗掲揚
10:46	文部科学大臣あいさつ
10:49	皇族のお言葉
10:52	炬火入場・点火
10:57	選手代表宣誓
11:01	式典演技開始
11:16	式典演技終了
11:17	閉式通告
11:18	皇族御退席
11:19	役員・選手団退場開始
11:37	役員・選手団退場完了
11:38	歓迎コンサート開始
11:58	歓迎コンサート終了
11:59	終了

7:30 役員・選手団受付開始
9:00 役員・選手団受付終了
9:10 役員・選手団整列開始
9:50 役員・選手団入場準備完了

国体に準じて行う式典

役員・選手団の参列時間※
2時間27分
※整列開始から退場までの時間

2022年栃木大会

時刻	次第
5:00	実施態度決定
7:30	開場
8:50	オープニングプログラム開始
9:10	入場締切
9:50	オープニングプログラム終了
9:59	皇族御着席
10:00	開式通告
10:01	役員・選手団入場開始
10:26	役員・選手団整列完了
10:27	開会宣言・大会会長あいさつ
10:30	国旗掲揚
10:32	大会旗・栃木県旗・宇都宮市旗儀礼
10:35	文部科学大臣あいさつ
10:38	皇族のお言葉
10:41	炬火入場・点火
10:46	選手代表宣誓
10:50	歓迎演技開始
11:10	歓迎演技終了
11:11	閉式通告
11:12	皇族御退席
11:13	役員・選手団退場開始
11:29	役員・選手団退場完了
11:30	エンディングプログラム開始
11:58	エンディングプログラム終了
11:59	終了

7:30 役員・選手団(A)(B)受付開始
8:05 役員・選手団(A)(B)受付終了
8:35 役員・選手団(A)整列開始
@第2陸上競技場
9:10 役員・選手団(B)第1ゲートへ移動し、フィールドに着席開始
9:21 役員・選手団(A)第1ゲートへ移動開始
9:50 役員・選手団入場準備完了

*役員・選手団(A):行進入場
役員・選手団(B):式典前にフィールドに着席

役員・選手団の参列時間
2時間54分

2023年鹿児島大会

時刻	次第
5:00	実施態度決定
7:30	開場
8:50	オープニングプログラム開始
9:10	入場締切
9:50	オープニングプログラム終了
10:00	開式通告
10:01	役員・選手団入場開始
10:36	役員・選手団整列完了
10:37	開会宣言・大会会長あいさつ
10:40	国旗掲揚
10:42	大会旗・鹿児島県旗・鹿児島市旗儀礼
10:46	文部科学大臣あいさつ
10:52	炬火入場・点火
10:57	選手代表宣誓
11:01	歓迎演技開始
11:16	歓迎演技終了
11:17	閉式通告
11:19	役員・選手団退場開始
11:37	役員・選手団退場完了
11:38	エンディングプログラム開始
11:58	エンディングプログラム終了
11:59	終了

※役員・選手団の参集範囲は、開催県が対象競技を指定している模様。(栃木大会の場合、陸上競技及びボッチャ競技の役員・選手団が対象)
※歓迎(式典)演技は、国体の式典演技の構成と同じ又は一部短縮して実施。

3 先催県の事例 (1) 式典の概要 (全障スポ閉会式の次第)



● 全障スポ閉会式は、オープニングプログラム、役員・選手団入退場、式典及びファイナルステージで構成

2018年福井大会

時刻	次第
5:00	実施態度決定
(13:00)	(競技終了)
14:00	開場
15:00	県民参加イベント開始
15:30	県民参加イベント終了
15:39	皇族御着席
15:40	開式通告
15:41	大会会長あいさつ
15:44	スポーツ庁長官あいさつ
15:47	皇族のお言葉
15:50	福井県旗・福井市旗降納
15:52	大会旗降納
15:53	国旗降納
15:55	大会旗引継
15:58	炬火納火
16:01	閉会宣言
16:08	ファイナルコンサート開始
16:38	ファイナルコンサート終了
16:39	皇族御退席
16:40	役員・選手団退場開始
17:10	役員・選手団退場完了
17:11	終了

14:00 役員・選手団受付開始
14:30 役員・選手団入場開始
14:50 役員・選手団受付終了
15:35 役員・選手団入場完了

国体に準じて行う式典

役員・選手団の参列時間*
2時間40分
※入場開始から退場までの時間

2022年栃木大会

時刻	次第
5:00	実施態度決定
(13:00)	(競技終了)
14:00	開場
15:00	オープニングプログラム開始
15:20	オープニングプログラム終了
15:29	皇族御着席
15:30	開式通告
15:31	大会会長あいさつ
15:34	スポーツ庁長官あいさつ
15:37	皇族のお言葉
15:40	大会旗・栃木県旗・宇都宮市旗儀礼
15:43	国旗儀礼
15:45	大会旗引継
15:48	炬火納火
15:51	閉会宣言
15:52	閉式通告
15:58	ファイナルステージ開始
16:28	ファイナルステージ終了
16:29	皇族御退席
16:30	役員・選手団退場開始
16:45	役員・選手団退場完了
16:46	終了

14:00 役員・選手団(C)
観客席へ入場開始
14:15 役員・選手団(B)受付開始
14:45 役員・選手団(B)受付終了
14:45 役員・選手団(B)
第4ゲートへ移動し、
フィールドに着席開始
15:25 役員・選手団(B)(C)
入場完了

*役員・選手団(B)：フィールドに着席
役員・選手団(C)：観客席に着席

役員・選手団の参列時間
2時間45分

2023年鹿児島大会

時刻	次第
5:00	実施態度決定
(13:00)	(競技終了)
14:00	開場
15:00	オープニングプログラム開始
15:30	オープニングプログラム終了
15:40	開式通告
15:41	大会会長あいさつ
15:44	スポーツ庁長官あいさつ
15:50	大会旗・鹿児島県旗・鹿児島市旗儀礼
15:54	国旗儀礼
15:56	大会旗引継
15:58	炬火納火
16:03	閉会宣言
16:04	閉式通告
16:10	ファイナルステージ開始
16:40	ファイナルステージ終了
16:42	役員・選手団退場開始
17:00	役員・選手団退場完了
17:01	終了

※役員・選手団の参集範囲は、いずれの県も、基準は設けていない模様。

3 先催県の事例 (1) 式典の概要



以下、特に記載のない限り、各県の式典基本構想及び式典基本計画の内容を基に記載

式典テーマ

- 先催県の多くは、大会が目指す姿との調和を図るため、スローガンを式典テーマとして設定

開催県	スローガン	式典テーマ
2022年 栃木県	夢を感動へ。感動を未来へ。	同左
2023年 鹿児島県	熱い鼓動 風は南から	同左
2024年 佐賀県 (※1)	新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。	PLAY スポーツのおもしろさを FEEL 心動かされる瞬間を JOIN みんなでつくろう
2025年 滋賀県 (※2)	湖国の感動 未来へつなぐ	わたSHIGA あなたが みんなが輝く式典をめざして ～人にやさしい 環境にやさしい 未来にやさしい式典づくり～
2026年 青森県	翔ける未来へ縄文の風に乗って	同左
2027年 宮崎県	紡ぐ感動 神話となれ	同左

※1 佐賀県は、スローガンはメッセージ、式典テーマは式典コンセプトとして策定
 ※2 滋賀県は、式典テーマは式典の目指す姿として設定

3 先催県の事例 (1) 式典の概要



式典の基本的な考え方 (式典の目指す姿)

- 先催県の多くは、式典基本方針で定めた基本理念を具体化したものを基本的な考え方として記載
- 主なキーワードは、「夢や感動、元気や喜びを共有」「開催県の魅力発信、再認識」「おもてなし」「人々の絆の深化」「簡素化」

開催県	基本理念のキーワード	式典の基本的な考え方 (式典の目指す姿)
2022年 栃木県	① 県民総参加、簡素、感動を共有 ② 魅力を全国に発信 ③ おもてなし、交流	① 県民をはじめ、参加するすべての人々が協力し、全員で感動を共有できる式典 ② 簡素化に努めながらも、工夫を凝らして創り上げることで、記憶に残る式典 ③ 栃木の美しい自然や優れた歴史・文化、豊かな食文化を取り入れることで、本県の魅力を全国に発信する式典 ④ 県民がふるさと魅力を再認識するとともに、その魅力に誇りをもつことができる式典 ⑤ 県民がおもてなしの心をもって来県者を迎え、栃木県民の温かさが伝わる式典 ⑥ 参加するすべての人々の絆を深め、来県者と栃木との本物の出会いを演出する式典
2023年 鹿児島県	① 県民総参加、簡素 ② おもてなし ③ 魅力を全国に発信	① 創意工夫を凝らし、鹿児島らしさを生かした式典 ② 東京オリンピックと同じ年に開催される国内最大のスポーツの祭典として、その感動と興奮を伝える式典 ③ 全国から訪れる人々を県民の心のこもったおもてなしで迎え、鹿児島の素晴らしさがいつまでも心に残る式典 ④ 参加する人々が交流の輪を広め、絆を育み、深める式典 ⑤ 県民が、郷土の自然環境、歴史・文化、食など鹿児島らしい魅力を再認識するとともに、その魅力に誇りを持てる式典 ⑥ 鹿児島の誇れる魅力を全国にアピールする式典
2025年 滋賀県	① 県民総参加、夢や感動を共有 ② 魅力を全国に発信 ③ おもてなし、交流 ④ 環境配慮	① 年齢、性別、障害のあるなしを問わず、県民をはじめ、参加するすべての人が協力し、作り上げる式典 ② 両大会を通じて生まれた夢や感動を参加者全員で共有し合える式典 ③ 障害に対する理解を深め、多様性を尊重し、共生社会づくりのきっかけとなる式典 ④ 「来てよかった」「参加してよかった」と思えるような心のこもった暖かいおもてなしを心がけ、参加する全ての人の記憶に残る式典 ⑤ 出会いと交流の場をつくり、人と人とのきずなが深まる式典 ⑥ 自然と共生し、環境を大切にしてきた県民の取組を活かし、CO2削減など環境にやさしい式典 ⑦ 持続可能な社会の実現に向け、県民の環境配慮意識のさらなる向上のきっかけとなる式典 ⑧ 企画や演出に創意工夫をこらして、滋賀ならではの魅力を広く全国に発信する式典 ⑨ 県民が多様な滋賀の魅力や再認識、再発見し、ふるさと滋賀に自信と誇りをもつことができる式典
2026年 青森県	① 県民の力を結集、感動を創出 ② 魅力を全国に発信 ③ おもてなし、交流	① 県民一人ひとりが持つ知恵や創意工夫を結集し、簡素化に努めながらもみんなで感動を創り出し、喜びを分かち合える式典 ② 県民の元気で活力ある姿がいきいきと輝く式典 ③ 美しい自然や有休の歴史と文化を表現して全国へ発信するとともに、あおもりのあらゆる魅力を体験できる式典 ④ 参加するすべての人々があおもりの良さを再認識し、その素晴らしさに誇りをもつことができる式典 ⑤ 県民による熱いおもてなしの心で来県者を歓迎し、心のこもった式典 ⑥ 全国から集う選手・観客をはじめ参加する人々の絆を深め、出会いを通して交流の輪が広がり、レガシー（遺産）となる式典
2027年 宮崎県	① 県民が様々な形で参加、元気・勇気・感動を共有 ② 魅力を全国に発信、おもてなし ③ アスリートファースト、簡素化	① 「チームみやざき」の一員である県民がそれぞれの立場で関わり、創り上げる式典 ② 両大会を通じて生まれた元気・勇気・感動を参加者全員で共有できる式典 ③ 企画や演出によって式典テーマを具現化し、宮崎ならではの魅力を広く全国に発信する式典 ④ 県民がおもてなしの心をもって来県者を迎え、参加するすべての人の記憶に残る式典 ⑤ 参加する選手の負担軽減を考慮し、アスリートファーストの視点に立った式典 ⑥ 簡素化を図りながらも創意工夫を凝らし、宮崎らしさを生かした式典

※佐賀県は、式典基本方針を策定していない。

3 先催県の事例 (1) 式典の概要



開催会場

- 先催県の多くは、国スポ・全障スポ共通の会場として、陸上競技場を選定

開催県	開催会場		所在市町村
	国スポ	全障スポ	
2022年 栃木県	栃木県総合運動公園陸上競技場		宇都宮市
2023年 鹿児島県	鹿児島県立鴨池陸上競技場		鹿児島市
2024年 佐賀県	【総合開会式】 SAGAサンライズパーク陸上競技場 【総合閉会式】 SAGAアリーナ	SAGAサンライズパーク陸上競技場	佐賀市
2025年 滋賀県	彦根総合スポーツ公園陸上競技場		彦根市
2026年 青森県	新青森県総合運動公園陸上競技場		青森市
2027年 宮崎県	(仮称) 新宮崎県陸上競技場		都城市

3 先催県の事例 (2) 総合開会式・開会式



総合開会式・開会式の基本的な考え方

- 総合開会式・開会式（両大会共通）の目指す内容を記載
- 主なキーワードは、「期待感の高揚」「開催県の魅力発信」「選手・参加者へエール」「スポーツへの親しみ創出」「参加者の負担軽減」「簡素化」

開催県	総合開会式・開会式の基本的な考え方
2022年 栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ・選手一人ひとりが抱く、「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」それぞれに懸ける思いや夢を表現し、これから始まる熱戦への期待感を高める内容 ・栃木の自然や歴史・文化を生かした内容で、会場全体を盛り上げ、栃木の魅力を全国へ発信する内容 ・次の世代を担う子どもたちをはじめ、すべての県民にスポーツの素晴らしさを広め、生涯を通じた幅広いスポーツ活動に結びつくきっかけになる内容
2023年 鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> ・簡素・効率化や、選手・出演者等の負担軽減を心掛けながら、鹿児島県の誇れる魅力を随所に取り入れ、創意工夫を凝らして鹿児島県のすばらしさを伝える内容 ・参加する方々が感動を共有し、絆が深まる内容 ・東京オリンピック・パラリンピックの感動と興奮を引継ぎ、これから始まる熱戦への期待が高まるとともに、県民がスポーツに親しむきっかけとなる内容 ・全国から訪れる方々を心こもったおもてなしで迎え、鹿児島県のすばらしさが心に残る内容
2024年 佐賀県	(該当なし)
2025年 滋賀県	<ul style="list-style-type: none"> ・企画や演出に創意工夫をこらして、広く滋賀のすばらしさを伝える内容 ・年齢、性別、障害のあるなしを問わず、県民をはじめ、参加するすべての人が連帯感を感じられる内容 ・全国から訪れる人々を心こもったおもてなしで迎え、出会いと交流により絆を深める内容 ・式典時間の短縮や演出方法などを検討し、参加する選手や出演者の負担軽減と式典の簡素効率化を目指す
2026年 青森県	<ul style="list-style-type: none"> ・県民総参加のもと、総力を結集して選手・参加者へエールを送り、国スポ・障スポへの期待感と感動を創出する内容 ・自然、歴史、文化といったあらゆる魅力を表現し、躍動するあおもりを全国へ発信する内容 ・スポーツを通じたつながりが貴重な財産となり、時代を担う子どもたちに夢や希望を与え、県民がスポーツに親しむきっかけになるような内容
2027年 宮崎県	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な形で参加した県民から、選手や参加者へエールを送り、元気・勇気・感動を共有できる内容 ・宮崎の魅力を表現し、来県者をおもてなしの心で温かく迎えるとともに、参加者の記憶に残る内容 ・アスリートファーストの視点から、参加する選手の負担軽減を第一に考え、式典時間の短縮や演出方法等を検討し、簡素化を図りながらも創意工夫をこらした内容

3 先催県の事例 (2) 総合開会式・開会式



総合開会式・開会式で実施するオープニングプログラムの基本的な考え方

- 総合開会式・開会式で実施するオープニングプログラムの目指す内容を記載
- 主なキーワードは、「開催県の魅力発信、再発見」「両大会への期待感や応援ムードの高揚」「スポーツのすばらしさの発信」「感動や喜びの共有」

開催県	総合開会式・開会式のオープニングプログラムの基本的な考え方
2022年 栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ・多彩な出演団体によって「<u>栃木の魅力</u>」を発信し、全国の人々が感動と喜びを共有できるような内容 ・多くの県民が参加し、出演者や観覧者が楽しい時間を共有し、「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」への期待感や応援ムードが高まるような内容 ・「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」の開幕を飾るにふさわしい内容
2023年 鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> ・国内最大のスポーツの祭典である両大会の開幕にふさわしいものとなるよう鹿児島島の多彩な魅力や文化を全国に発信するとともに、創意工夫を凝らし、障害のある方もない方も、感動を共有し、絆を深め、<u>両大会への期待が高まる内容</u> ・東京オリンピック・パラリンピックの選手等と連携し、その感動と興奮を伝え、<u>スポーツのすばらしさを感じられる内容</u>
2024年 佐賀県	<p>式典の前に観客の期待を膨らませ、式典の後にその印象を引き立たせるもの。SAGA2024では、その時間が、そこに立ち会うすべての人にとって、楽しく、スポーツ大会の魅力をも分に感じられるものとなるよう、<u>佐賀らしさの発信</u>だけでなく、<u>スポーツのすばらしさ</u>や、この大会に関わる人の様々な想いを表現できるプログラムにしていく。また、フィールド内だけでなく、会場全体を活用して楽しめるものも検討する。</p>
2025年 滋賀県	<ul style="list-style-type: none"> ・温かいおもてなしの心をもって、<u>滋賀らしい「やさしさ」</u>を発信し、出演者と観覧者が楽しい時間を共有できる内容 ・企画や演出に創意工夫をこらし、<u>多様な滋賀の魅力</u>を再認識、再発見できる内容 ・オープニングからエンディングまで一体感が生まれるようなプログラム構成 ・これから始まる「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」への期待感、応援ムードが高まるような内容
2026年 青森県	<ul style="list-style-type: none"> ・多彩な出演団体によって「<u>あおもりの魅力</u>」を発信し、全国の人々と喜びや感動を分かち合い、国スポ・障スポの開幕を飾るにふさわしい内容 ・多くの県民が参加し、出演者・観覧者が一体となって心躍る楽しい時間を共に過ごし、<u>期待感や応援ムードが高まる内容</u>

3 先催県の事例 (2) 総合開会式・開会式



総合開会式・開会式で実施するエンディングプログラムの基本的な考え方

- 総合開会式・開会式で実施するエンディングプログラムの目指す内容を記載
- 主なキーワードは、「式典の余韻を楽しむ」「これから始まる競技会への期待感の高揚」「式典終了後の会場周辺の混雑緩和と役員・選手団のスムーズな退出」

開催県	総合開会式・開会式のエンディングプログラムの基本的な考え方
2022年 栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ・観覧者に式典の余韻等を楽しんでいただくとともに、これから始まる競技会への期待が高まるよう、創意工夫を凝らした内容 ・式典終了後、<u>会場周辺の混雑緩和と、役員・選手団や観覧者等がスムーズに退場できる</u>よう配慮
2023年 鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> ・式典の余韻を楽しみ、<u>これから始まる競技会への期待が高まり、心に残る</u>内容 ・式典終了後、<u>会場周辺の混雑緩和と、役員・選手団のスムーズな退出が可能となる</u>よう配慮
2024年 佐賀県	※総合開会式・開会式のオープニングプログラムと同じ。
2025年 滋賀県	※総合開会式・開会式のオープニングプログラムと同じ。
2026年 青森県	<ul style="list-style-type: none"> ・式典の余韻を楽しみながら、<u>これからは始まる競技会への期待が高まる</u>よう、創意工夫を凝らした内容 ・式典終了後、<u>会場周辺の混雑緩和と、役員・選手団のスムーズな退出が可能となる</u>よう配慮

3 先催県の事例 (3) 総合閉会式・閉会式



総合閉会式・閉会式の基本的な考え方

- 総合閉会式・閉会式（両大会共通）の目指す内容を記載
- 主なキーワードは、「選手の健闘を称える」「大会関係者への感謝」「交流や絆、感動や喜びの深化」「全障スポや次期開催の国スポ・全障スポへつなげる」

開催県	総合閉会式・閉会式の基本的な考え方
2022年 栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの感動を与えてくれた選手の健闘を称え、「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」に関わったすべての人への感謝を表現した内容 ・「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」の中で生まれた一期一会の出会いを大切に、絆をさらに深める式典 ・「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」での多くの感動を振り返るとともに、その感動を第78回国民スポーツ大会や、第23回全国障害者スポーツ大会へつなげる式典
2023年 鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> ・「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」を振り返り、多くの感動を与えてくれた選手を称えるとともに、両大会を支えた全ての方々に、感謝の気持ちを伝える内容 ・両大会を通じて生まれた交流や感動や絆を、さらに深める内容 ・「熱い鼓動」を「燃ゆる感動かごしま大会」や「三重とこわか国体・とこわか大会」につなげる内容
2024年 佐賀県	(該当なし)
2025年 滋賀県	<ul style="list-style-type: none"> ・選手たちの健闘を称えるとともに、大会に関わったすべての人に対する感謝の気持ちを表現した内容 ・全国から訪れた人々と県民との絆や、大会で生まれた感動をさらに深める内容 ・次期開催の「青の煌めき あおもり国スポ・障スポ」へエールを送る内容 ・国スポの盛り上がりを「わたSHIGA輝く障スポ」につなげる内容（総合閉会式）
2026年 青森県	<ul style="list-style-type: none"> ・数々の熱戦を繰り広げてくれた選手の健闘を称えるとともに、大会を支えてくれたすべての人に感謝の気持ちを表現した内容 ・国スポ・障スポを通じて生まれた交流の輪、喜びや感動をさらに深める内容 ・第81回国民スポーツ大会や、第26回全国障害者スポーツ大会へつなげる内容
2027年 宮崎県	<ul style="list-style-type: none"> ・元氣・勇気・感動を与えてくれた選手の健闘を称えるとともに、大会を支えてくれたすべての人に感謝の気持ちを表現した内容 ・国スポ・障スポを通じて生まれた交流の輪を大切に、さらに深める内容 ・次期開催の第82回国民スポーツ大会や、第27回全国障害者スポーツ大会へつなげる内容

3 先催県の事例 (3) 総合閉会式・閉会式



総合閉会式・閉会式で実施するオープニングプログラムの基本的な考え方

- 総合閉会式・閉会式で実施するオープニングプログラムの目指す内容を記載
- 主なキーワードは、「選手の健闘を称える」「大会関係者への感謝」「開催県の魅力の発信、再発見」「全障スポへの期待感の高揚」「夢や感動の共有」

開催県	総合閉会式・閉会式のオープニングプログラムの基本的な考え方
2022年 栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの感動を与えてくれた<u>選手の健闘を称え</u>、「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」に関わったすべての方々への感謝の気持ちを表現した内容 ・「<u>栃木の魅力</u>」を発信し、全国の人々が感動できる内容 ・「いちご一会とちぎ国体」の総合閉会式では、「<u>いちご一会とちぎ大会</u>」への期待が高まるような内容
2023年 鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り広げられた熱戦を振り返り、<u>選手の健闘を称え</u>、ボランティアや応援等で支えた方々に感謝し、両大会の感動を伝える内容 ・鹿児島県の多彩な魅力や文化を、<u>創意工夫を凝らして全国に発信</u> ・「燃ゆる感動かごしま国体」の総合閉会式では、「<u>燃ゆる感動かごしま大会</u>」への期待が高まる内容
2024年 佐賀県	※総合開会式・開会式のオープニングプログラムと同じ。
2025年 滋賀県	<ul style="list-style-type: none"> ・温かいおもてなしの心をもって、<u>滋賀らしい「やさしさ」</u>を発信し、出演者と観覧者が楽しい時間を共有できる内容 ・企画や演出に創意工夫をこらし、<u>多様な滋賀の魅力</u>を再認識、再発見できる内容 ・選手とともに熱戦を振り返り、<u>選手の健闘を称え</u>るとともに、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」に関わったすべての人に感謝の気持ちを表現した内容 ・「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」を通じて生まれた<u>夢や感動を、参加したすべての人で共有</u>し合い、未来へつなぐ内容 ・「わたSHIGA輝く国スポ」の総合閉会式では、<u>後に続く「わたSHIGA輝く障スポ」</u>への期待が高まるような内容
2026年 青森県	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り広げられた熱戦を振り返り、感動を与えてくれた<u>選手を称え</u>るとともに、「<u>青の煌めきあおもり国スポ</u>」及び「<u>青の煌めきあおもり障スポ</u>」に関わったすべてのの方々への感謝の気持ちを表現した内容 ・<u>あおもりの魅力</u>を全国に発信し、感動を創出する内容 ・「青の煌きらめきあおもり国スポ」の総合閉会式では、「<u>青の煌めきあおもり障スポ</u>」への期待が高まる内容

3 先催県の事例 (3) 総合閉会式・閉会式



閉会式で実施するファイナルステージの基本的な考え方

- 閉会式で実施するファイナルステージの目指す内容を記載
- 主なキーワードは、「フィナーレにふさわしい」「交流や絆の深化」「達成感や喜び」「心に残る」

開催県	閉会式のファイナルステージの基本的な考え方
2022年 栃木県	<ul style="list-style-type: none">・「いちご一会とちぎ大会」のフィナーレを飾るにふさわしい内容・「いちご一会とちぎ大会」を通じて生まれた<u>一期一会の出会いを大切に</u>し、<u>絆がさらに深まり</u>、<u>達成感や喜び</u>が感じられ、<u>心に残る</u>ような内容
2023年 鹿児島県	<ul style="list-style-type: none">・多くの感動を与えてくれた選手、観客、大会関係者等が一体となり、大会を通じて生まれた<u>交流や絆がさらに深まり</u>、<u>達成感や喜び</u>を感じられ、<u>心に残る</u>内容
2024年 佐賀県	※総合開会式・開会式のオープニングプログラムと同じ。
2025年 滋賀県	※総合閉会式・閉会式のオープニングプログラムと同じ。
2026年 青森県	<ul style="list-style-type: none">・「青の煌めきあおもり障スポ」のフィナーレを飾るにふさわしい内容・<u>選手、観客、大会関係者等が一体となって絆を深め</u>、<u>県民のレガシー（遺産）</u>となるような内容

3 先催県の事例 (4) 式典演技



式典演技（国スポ）・歓迎演技（全障スポ）の基本的な考え方

- 総合開会式・開会式で実施する式典演技・歓迎演技の目指す姿を記載
- 主なキーワードは、「両大会への期待感の高揚」「開催県の魅力発信」「出演者と選手・観覧者の一体感の創出」「国スポ・全障スポの連携、一体的な演出」

開催県	式典演技・歓迎演技の基本的な考え方
2022年 栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ・参加するすべての人が感動し、これから始まる「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」への期待感を高める演技構成 ・栃木県の自然や歴史・文化などを取り入れ、「栃木の魅力」を感じることのできる演技構成 ・全国から来県した人々に「おもてなし」の気持ちが伝わり、参加する全ての人々が「つながり」を感じることができる演技内容
2023年 鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> ・全国から来ていただいた方々に、鹿児島県のすばらしさが伝わる演技構成 ・広大な県土ではぐくまれた豊かな自然や文化など、受け継がれてきた鹿児島県の誇れる魅力を広く全国に発信 ・多くの県民が参加し、演技者が一体となって力強く表現 ・鹿児島県に集う全国の方々と感動と興奮を共有するとともに、いつまでも記憶に残り、次の世代に受け継がれる演技
2024年 佐賀県	<p>全国から集まるアスリートや観客への歓迎とエールを伝えるために行うもの。SAGA2024では、ゲストであるアスリートや観客の気持ちが盛り上がるような、様々な感覚を刺激されるもの、楽しさあふれるものにしていく。さらに、式典を支える側であるパフォーマーも主役となり、その想いを表現すれば、すべての人に、より大きな感動を呼び起こすことができるはず。楽しさにあふれた演出はもちろん、パフォーマーの関わり方も検討し、この大きな舞台に立つすべての人の一体感や盛り上がりを生み出すものにしていく。</p>
2025年 滋賀県	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然や歴史・文化などの滋賀の魅力や、滋賀らしい「やさしさ」を全国に発信するとともに、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」への期待感を高める構成 ・出演者と選手・観覧者との間に一体感を創出し、参加したすべての人の記憶に残る内容にするとともに、全国から滋賀にお越しいただいた方々に「おもてなし」の心が伝わる構成 ・「わたSHIGA輝く国スポ」と「わたSHIGA輝く障スポ」の演技内容を統一し、一体感のある構成
2026年 青森県	<ul style="list-style-type: none"> ・参加するすべての人々の笑顔が煌めき、これから始まる国スポ・障スポへの期待感が高まる演技構成 ・美しい自然や悠久の歴史と文化を表現して、受け継がれてきたあおもりの誇れる魅力を体感でき、全国に発信する演技構成 ・出演者と観客が一体となって感動を創出し、いつまでも心に残る演出 ・演技内容がわかりやすく伝わり、あおもりの魅力を生かした展開 ・国スポ・障スポの連携を図り、テーマや演出を共有

3 先催県の事例 (4) 式典演技



式典演技（国スポ）を実施するタイミング

- 先催県の多くは、式典の前に行く「式典前演技」として実施
- 式典前演技の場合、演技終了後に出演者の退場や大道具等の片付けによる場面転換（約20分）が必要なほか、入場前のため役員・選手団は観覧することができない一方で、式典前演技により会場全体の大会への期待感や応援ムードを高め、来場者が役員・選手団を心から歓迎する雰囲気醸成に寄与するものと考えられる。
- 栃木県は、次第や演技構成を工夫し、国体で初めて役員・選手団が式典演技を観覧する機会を実現

開催都道府県	2013年 東京都	2014年 長崎県	2015年 和歌山県	2016年 岩手県	2017年 愛媛県	2018年 福井県	2019年 茨城県	2022年 栃木県	2023年 鹿児島県
式典の前		○	○	○	○	○	○		○ (予定)
式典の後	○ 役員・選手団退場後							○ 役員・選手団退場前	

※式典の前：開式通告の前に実施
式典の後：閉式通告の後に実施

3 先催県の事例 (4) 式典演技



歓迎(式典)演技 (全障スポ) を実施するタイミング

- 慣例により、式典の中で実施するケースが多い。
- 式典の終盤に行うことで、大道具等の片付けによる場面転換が不要となり、フィールドに残った出演者が役員・選手団の退場時に直接エールを送ることができる。
- 歓迎(式典)演技の内容は、国体の式典演技の構成を一部短縮し、15分程度で実施するケースが多い。

開催 都道府県	2013年 東京都	2014年 長崎県	2015年 和歌山県	2016年 岩手県	2017年 愛媛県	2018年 福井県	2022年 栃木県	2023年 鹿児島県
式典の 中		○	○	○	○	○	○	○ (予定)
式典の 後	○ 役員・選手団退場前							

※式典の中：開式通告から閉式通告の間に実施
式典の後：閉式通告の後に実施

3 先催県の事例 (5) 式典音楽



式典音楽の基本的な考え方

- 総合開会式・開会式及び総合閉会式・閉会式で使用する式典音楽の目指す姿を記載
- 主なキーワードは、「開催県にゆかりのある楽曲」「おもてなし」「国スポ・全障スポの連携、式典音楽・式典音楽隊の共有」

開催県	式典音楽の基本的な考え方
2022年 栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての参加者の記憶に残り、全員で感動を共有することのできる式典音楽 ・使用楽曲においては、<u>栃木にゆかりのある楽曲</u>を取り入れて構成することで、県民がふるさとの魅力を再認識する式典音楽 ・心温まる式典音楽で迎え、来県者と栃木との本物の出会いを演出 ・「いちご一会とちぎ国体」と「いちご一会とちぎ大会」の連携を図り、<u>式典音楽及び式典音楽隊を共有</u>
2023年 鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島島の豊かな自然や歴史、文化をモチーフとした楽曲や、<u>本県にゆかりのある楽曲</u>を使用し、さらに、吹奏楽さきがけの地「鹿児島」の魅力をとり入れ、創意工夫を凝らし、鹿児島らしい式典音楽 ・全国から訪れる方々を心のこもった音楽の<u>おもてなし</u>で歓迎し、演奏者や参加する方々の絆が深まり、感動を与える式典音楽 ・式典音楽隊は県内の団体から構成し、作曲・編曲については、<u>鹿児島にゆかりのある作家</u>を起用し、全国へ鹿児島島の「熱い鼓動」や「燃ゆる感動」を伝えられる式典音楽
2024年 佐賀県	<p>式典の各場面を飾り、その意味や行為を印象づける役割を担う。SAGA2024では、場面ごとに合う音楽を奏でるだけでなく、音楽で式典全体を彩ることによって、より心に響く式典をつくっていく。式典の厳粛さはもちろん、楽しさ、関わる人の想い、一体感などの雰囲気をつくり出すために、式典全体を通して音楽の構成を考え、それにあった作曲・編曲、演奏形態などを検討していく。</p>
2025年 滋賀県	<ul style="list-style-type: none"> ・滋賀らしい「やさしさ」を表現した音楽で、参加するすべての人の記憶に残る式典音楽 ・<u>滋賀にゆかりのある楽曲</u>などを取り入れるとともに、式典音楽の構成を工夫し、滋賀ならではの魅力ある式典音楽 ・「わたSHIGA輝く国スポ」と「わたSHIGA輝く障スポ」の一体感を感じることができ、<u>式典音楽および式典音楽隊</u>
2026年 青森県	<ul style="list-style-type: none"> ・青森県の自然や歴史、文化をモチーフとした楽曲や、<u>本県にゆかりのある楽曲</u>を取り入れて構成し、郷土色豊かな式典音楽 ・あおもりの魅力を全国へ発信するため、式典音楽隊は県内の団体から構成し、すべての参加者が感動を共有できる式典音楽 ・全国から訪れる方々を<u>熱いおもてなし</u>の心で歓迎する式典音楽 ・国スポ・障スポの連携を図り、<u>式典音楽と式典音楽隊は共有</u>

3 先催県の事例 (5) 式典音楽



使用曲の構想

- 総合開会式・開会式並びに総合閉会式・閉会式の場面ごとの使用曲の構想を記載
- 多くの先催県では国スポ・全障スポで式典音楽は共有し、場面ごとの使用曲は概ね同じ傾向

<鹿児島国体・全障スポの総合開会式・開会式の式典音楽使用曲>

場面	国体	全障スポ
開式通告	ファンファーレⅠ	
役員・選手団入場	入場行進曲 (「われは海の子」「かごしまヒットメドレー」など)	
開会宣言	ファンファーレⅡ	
国旗掲揚	国歌「君が代」	
大会旗・日本スポーツ協会旗掲揚	国民体育大会歌 「若い力」	全国障害者スポーツ大会歌 「空よ大地よ」
鹿児島県旗掲揚・鹿児島市旗掲揚	「鹿児島県民の歌」	
天皇杯・皇后杯返還	「見よ勇者は帰りぬ」 (得賞歌)	—
炬火入場・点火	炬火関連曲Ⅰ<入場・点火>	
選手代表宣誓	ファンファーレⅢ	
閉式通告	ファンファーレⅣ	
役員・選手団退場	入場行進曲から抜粋	

<鹿児島国体・全障スポの総合閉会式・閉会式の式典音楽使用曲>

場面	国体	全障スポ
開式通告	ファンファーレⅠ	
役員・選手団入場	入場行進曲 (総合開会式と同じ)	—
表彰状授与	「見よ勇者は帰りぬ」 (得賞歌)	—
天皇杯・皇后杯授与		
鹿児島県旗・鹿児島市旗降納	「鹿児島県民の歌」	全国障害者スポーツ大会歌 「空よ大地よ」
大会旗・日本スポーツ協会旗降納	国民体育大会歌 「若い力」	
国旗降納	国歌「君が代」	
炬火分火・納火	炬火関連曲Ⅱ<分火・納火>	炬火関連曲Ⅱ<納火>
国体旗返還・国スポ旗授与	「ゆめ～KIBAIYANSE～」 「Batons～キミの夢が叶う時～」 (佐賀県指定楽曲)	—
大会旗引継	—	「Batons～キミの夢が叶う時～」 (佐賀県指定楽曲)
佐賀県旗掲揚	「Batons～キミの夢が叶う時～」 (佐賀県指定楽曲)	—
閉会宣言	ファンファーレⅤ	
閉式通告	ファンファーレⅥ	
役員・選手団退場	入場行進曲から抜粋	

※いずれも鹿児島県の式典実施要項の内容を記載。

3 先催県の事例 (5) 式典音楽



式典音楽隊の編成人数

- 総合開会式・開会式及び総合閉会式・閉会式で演奏する式典音楽隊の編成人数を記載
- 栃木県では、吹奏楽隊は高等学校吹奏楽部（2校）及び警察音楽隊、指揮者は当該校吹奏楽部の指揮者（県吹奏楽連盟要職者）及び警察音楽隊長、合唱隊は高等学校合唱部（5校）及び市民合唱団（2団）によりそれぞれ構成

開催県	指揮者	吹奏楽隊	合唱隊	ファンファーレ隊
2022年 栃木県	記載なし (3名)	150名程度 (100名)	200名程度 (120名)	記載なし
2023年 鹿児島県	記載なし (4名)	150名程度 (約120名)	150名程度 (約130名)	20名程度 (約20名)
2024年 佐賀県	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし
2025年 滋賀県	記載なし	今後検討	今後検討	今後検討
2026年 青森県	記載なし	150名程度	150名程度	記載なし

※（ ）内は、両大会前年に決定した式典実施要項の数値。

3 先催県の事例 (5) 式典音楽



式典音楽隊の編成基準

- 共通基準は、日常的に活動し、一定の演奏水準が維持できることなど、概ね同様の要件を設定
- 部門別基準は、吹奏楽連盟や合唱連盟の推薦を受けた団体を中心に編成するケースが多い

開催県	共通基準	部門別基準	
		吹奏楽隊・ファンファーレ隊	合唱隊
2022年 栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ・式典音楽隊への参加意思をもつ団体 ・日常的な活動が活発で、一定の演奏水準が維持でき、指導者と練習会場を継続的に得ることのできる団体 ・各種練習会、リハーサル、総合開会式・閉会式等への参加が可能であり、かつ地理的・時間的条件が整う団体 ・中学校・高等学校等の出演においては<u>学校長の承認</u>が得られ、引率等の人員の確保ができる団体。大学・職場一般においては<u>所属長</u>等の承認が得られる団体。 	県吹奏楽連盟の推薦を受けた団体を中心として編成	県合唱連盟の推薦を受けた団体を中心として編成
2023年 鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な活動が活発で、一定の演奏水準を持ち、練習会、リハーサル、総合開・閉会式及び開・閉会式に、地理的・時間的条件において参加が可能な団体 ・中学校・高等学校等の出演においては、<u>学校長の承認</u>が得られ、引率等が確保できる学校とし、大学・職場一般においては、<u>所属長</u>等の承認が得られる団体 	県吹奏楽連盟の推薦を受けた団体を中心として編成	県合唱連盟の推薦を受けた団体を中心として編成
2024年 佐賀県	記載なし	記載なし	記載なし
2025年 滋賀県	<ul style="list-style-type: none"> 次に掲げる視点を大切にし、日常的な活動が活発で、一定の演奏水準が維持でき、各種練習会、リハーサル、総合開・閉会式に地理的・時間的条件において参加が可能な個人および代表の承認を得ている団体から選出 ・国スポ・障スポ開・閉会式の基本的な考え方や式典の目指す姿を表現できる音楽隊を編成 ・滋賀県が培ってきた文化、芸術を発信するのにふさわしい音楽隊を編成 ・子どもたちが活躍し未来へつなげる音楽隊を編成 	記載なし	記載なし
2026年 青森県	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な活動が活発で、一定の演奏水準を維持でき、練習会、リハーサル、総合開・閉会式及び開・閉会式に、地理的・時間的条件において参加が可能な団体 ・中学校・高等学校等の出演においては、<u>学校長の承認</u>が得られ、引率等が確保できる学校とし、大学・職場一般においては、<u>所属長</u>等の承認が得られる団体 	県吹奏楽連盟の推薦を受けた団体を中心として編成	県合唱連盟の推薦を受けた団体を中心として編成

3 先催県の事例 (6) 各競技会の表彰式



各競技会の表彰式の基本的な考え方

- 各競技会の表彰式の目指す内容を記載
- 主なキーワードは、「選手の健闘を称える」「簡素化」「地域の特色を生かす」

開催県	各競技会の表彰式の基本的な考え方
2022年 栃木県	<ul style="list-style-type: none">・ 全力を尽くした<u>選手の健闘を称え</u>、参加者同士で感動を分かち合うとともに、関わったすべての人が達成感やすがすがしさを感じられる内容・ 簡素な中でも、<u>地域の特色を生かした内容</u>
2023年 鹿児島県	<ul style="list-style-type: none">・ 各競技会の表彰式は、各会場地市町村が、実施競技団体の協力を得て実施・ 実施に当たっては、<u>簡素化に努めつつ、愛称・スローガン、マスコットキャラクターの活用や地域の特色を生かした内容</u>・ 複数の市町村が共同で開催する競技の表彰式は、関係市町村及び実施競技団体で協議の上、実施
2024年 佐賀県	(該当なし)
2025年 滋賀県	<ul style="list-style-type: none">・ 勇気と感動を与えてくれた<u>選手たちの健闘を称える内容</u>・ <u>簡素効率化をめざしながらも、滋賀県らしさや地域の特色を生かした内容</u>
2026年 青森県	(該当なし)
2027年 宮崎県	<ul style="list-style-type: none">・ 元気・勇気・感動を与えてくれた<u>選手たちの健闘を称える内容</u>・ 宮崎らしさや各市町村の<u>特色を生かした内容</u>

3 先催県の事例 (6) 各競技会の表彰式



各競技会の表彰式の次第及び実施上の留意点

- 国スポの各競技会の表彰式の次第と実施上の留意点を記載（全障スポはこれに準じて実施）
- 多くの先催県では、次第、実施上の留意点ともに同じ傾向

次第	実施上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ① 開式通告 ② 成績発表 ③ 表彰状授与 ④ 大会会長トロフィー授与 ⑤ 競技会会長閉会のあいさつ ⑥ 会場地代表歓送のことは ⑦ 国旗降納 ⑧ 大会旗、実施競技団体旗、会場地市町村旗降納 ⑨ 競技会終了宣言 ⑩ 閉式通告 <p style="margin-top: 20px;">(②～⑧は、国体開催基準要項細則で定める次第の大枠)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 表彰式の実施に当たっては、競技の特性や種目・種別に応じて、簡素化に努めるものとする。 ② 表彰式の内容及び所要時間は、選手のコンディションに配慮したものとする。 ③ 1競技が、複数会場地市町村にわたる場合は、当該市町村準備（実行）委員会等と競技団体が十分協議の上、実施する。 ④ 大会会長トロフィーは、表彰式において授与するまでの間、表彰式を実施する会場地市町村準備（実行）委員会等が責任を持って保管する。 ⑤ 特別競技及びデモンストレーションスポーツに係る表彰式の内容については、左記の次第に準じる。ただし、大会会長トロフィー授与は除く。 ⑥ 公開競技に係る表彰式については、中央競技団体が内容等を決定する。

※いずれも青森県の式典基本計画の内容を一部編集して記載。

3 先催県の事例 (7) 炬火イベント



炬火イベントの基本的な考え方

- 炬火イベントの目指す内容を記載
- 主なキーワードは、「地域の特色を生かす」「開催気運の醸成」「幅広い年代の県民参加」「希望の炎」

開催県	炬火イベントの基本的な考え方
2022年 栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史・伝統・文化を生かすことで、郷土意識を高める内容 ・子どもからお年寄りまで、幅広い年代の県民が参加することで、「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」に向けた機運を高める ・県民や選手の心に刻まれる内容となるよう工夫する
2023年 鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> ・総合開・閉会式における炬火は、県民や選手等の心に残る内容 ・採火地及び採火方法については、県内市町村の意向を踏まえながら、それぞれの地域の歴史・文化・伝統にちなんだものとする ・イベントについては、子どもからお年寄りまで多くの方が参加できるよう創意工夫を凝らすとともに、大会旗も活用しながら、国体開催気運を高めるものとする ・東京オリンピックイヤーにふさわしい内容となるよう工夫する
2024年 佐賀県	<p>国スポの炬火は“<u>スポーツの希望の炎</u>”という普遍的な意味合いをもつ。SAGA2024では、その本来の意味に立ち返り、炬火がもつ象徴的なイメージを大切にしていきたいと考えている。スポーツの希望の炎が放つ輝きを新しい大会のはじまりであるこの場所から届けたい。そのために、炎が生まれてから消えるその時までを、この大会においてすべての人とともに共有し、皆の想いがその輝きに重なるようにしていく。そして、その輝きが、大会中だけでなく大会後も、すべての人のスポーツへの想いの象徴であり続けられるようにしていく。</p>
2025年 滋賀県	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色を生かしながら、簡素な中にも創意工夫をこらし、環境にやさしく豊かな自然や歴史・文化などの滋賀の魅力があふれる内容 ・年齢、性別、障害のあるなしを問わず、多くの県民が参加することにより、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」への機運を盛り上げるとともに、地域の連帯感を高める内容 ・県民自らの手で採火等を行うことにより、<u>県民総参加</u>につながる、活気あふれる内容 ・「わたSHIGA輝く国スポ」と「わたSHIGA輝く障スポ」の一体感を感じることができている内容
2026年 青森県	<ul style="list-style-type: none"> ・炬火イベントは、「オールあもり」で創り上げ、<u>国スポ・障スポ開催に向けた気運を高める内容</u> ・県民の誰もが参加しやすく、幅広い世代の交流を通して、一体感と感動を得られる内容 ・各市町村の歴史・伝統・文化の特色を生かし、県民や選手の心に刻まれる内容
2027年 宮崎県	<ul style="list-style-type: none"> ・「チームみやざき」の一員である県民の誰もが参加しやすいものとし、<u>国スポ・障スポ開催に向けた気運を高める内容</u> ・各市町村の特色を生かし、創意工夫を凝らした宮崎の魅力があふれる内容

3 先催県の事例 (7) 炬火イベント



炬火イベントの基本方針

- 炬火イベントの基本的な考え方を踏まえた基本方針を記載
- 各市町村で採火を行い、それらを一つに集火し、総合開会式・開会式で炬火台に点火する方法が一般的

開催県	炬火イベントの基本的な考え方
2022年 栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ・炬火は、<u>県内全市町で採火</u>を行い、保管する ・採火した炬火は、各市町が実施する催しで活用することができる ・炬火イベントは、多くの県民が参加できる内容とする ・実施にあたっては、簡素・効率化を心がけながらも、地域の特色を生かしたイベントになるよう、工夫を凝らしたものとする ・<u>全市町で採火した炬火を一つに集火し、「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」の総合開会式・開会式において炬火台に点火する</u>
2023年 鹿児島県	(該当なし)
2024年 佐賀県	(該当なし)
2025年 滋賀県	<ul style="list-style-type: none"> ・炬火は、<u>県内全市町で採火</u>を行い、保管する ・採火した炬火は、各市町が実施する催しで活用することができる ・実施にあたっては、環境にやさしく、琵琶湖等の滋賀の自然を活用するなど滋賀の魅力あふれる内容 ・実施にあたっては、簡素・効率化を心がけながらも、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」の開催を身近に感じられるイベントになるよう、工夫をこらしたものとする ・<u>各市町で採火した炬火を一つに集火し、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」の総合開会式・開会式において炬火台に点火する</u>
2026年 青森県	<ul style="list-style-type: none"> ・炬火は、<u>県内全市町村で採火</u>し、保管する ・採火した炬火は<u>一つに集火し、総合開会式・開会式において炬火台に点火する</u> ・炬火の市町村間リレーは、原則として行わない ・採火した炬火は、各市町村が実施する催しで活用することができる ・実施にあたっては簡素・効率化を心掛けながらも、地域の特色を生かし、多くの県民が参加できる内容とする

3 先催県の事例 (8) 特徴的な取組の実績や計画



開催県	特徴的な取組（計画含む）
2022年 栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで女性が務めていた役員・選手団の都道府県プラカードは性別を問わず選出 ・役員・選手団入場後、着席して参加する“とちぎスタイル”を国体で初めて実施 ・次第や演技構成を工夫し、国体で初めて式典演技を役員・選手団の前で披露
2023年 鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年7月から8月にかけて、薩摩・大隅・離島の3コースで全市町村を巡る炬火リレーを実施（全市町村を巡る炬火リレーの実施は、2012年の岐阜国体以来11年ぶり） ・総合開会式の式典終了後、鹿児島県ゆかりの著名人や大会ボランティアからの激励や、長渕剛氏の歌による選手団激励メッセージを実施
2024年 佐賀県	<ul style="list-style-type: none"> ・式典演技と選手団入場を同時に行い、パレードのような新しい選手団入場のカタチを創出 ・総合閉会式はアリーナで開催し、大型ビジョンや照明装置等を用いてエンターテインメント性の高い演出 ・総合閉会式の炬火分火において、映像・照明等を使用し、炬火が佐賀県から日本全国へと届けられる演出 ・「選手の活躍にスポットを当てた表彰規程」を策定し、選手個人を称える取組を実施（例：日本新記録や大会新記録を記録した選手を表彰、団体競技の優勝チームからMVPを選出して表彰）



フィールドに着席して式典演技を観覧する役員・選手団（右上）
（出典：いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会報告書）



燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会炬火リレーマップ



選手団入場・ウェルカムパフォーマンスイメージ
（出典：SAGA2024式典実施計画（概要編））

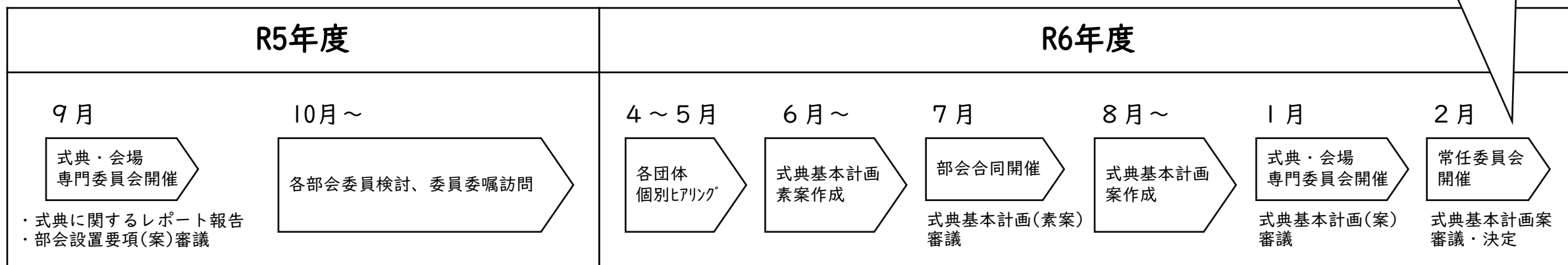
4 今後の進め方



(1) 式典のあり方検討の進め方

- 専門委員会に部会（式典運営、式典音楽、式典演技）を設置し、部会委員各位から専門的かつ多角的な助言を受けられる体制を構築する。
- 専門委員会委員各位の所属団体や競技団体等に対して個別にヒアリングを行い、これまで式典が果たしてきた役割や課題、式典の望ましい姿など、式典のあり方検討に資する情報を把握・整理する。
- 事務局が作成した式典基本計画（素案）を専門委員会部会に示し、本県ならではの独自性や創造性、エンターテインメント性を発揮した式典のあり方に関する検討を深める。（令和6年7月を目途に、第1回部会を合同で開催予定）
- 部会での審議結果を反映した式典基本計画（案）を作成し、式典・会場専門委員会（令和7年1月開催予定）での審議を経て、常任委員会（同年2月開催予定）で式典基本計画の決定を目指す。

(2) 令和6年度までのスケジュールのイメージ



別冊

式典に関するレポート
参考資料

式典・会場に係る今後のスケジュール

	検討内容	令和6～7年度 (開催4～3年前)	令和8年度 (開催2年前)	令和9年度 (開催1年前)	令和10年度 (開催年)
全体計画	・式典に係る計画等	式典基本計画	式典実施計画	式典実施要項	式典総合練習会(国スポ本大会の1か月前)・総合リハーサル 信州やまなみ国スポ・全障スポ開催
	・開・閉会式会場整備に係る計画等	会場整備基本計画	会場整備基本設計	会場整備実施設計	
(1) 式典運営に関すること(うち下線部は式典運営部会の審議事項と想定)					
式典運営	・開・閉会式運営 ・スケジュール ・開・閉会式出演者 ・総合練習会計画	<ul style="list-style-type: none"> 式典テーマ 式典全体の基本的な考え方 式次第案 関係機関等へのヒアリング 専門委員会委員先催県視察 	<ul style="list-style-type: none"> 全体スケジュール 参加者スケジュール 式典実施本部体制 掲揚旗計画 会場配置 動線計画 選手団参集範囲 役員・選手団入退場計画 荒天時計画 開・閉会式出演者選定方針(ナウガー、司会者、補助員等) 	<ul style="list-style-type: none"> 通信連絡システム計画 式典ステージ配置 音響・映像システム計画 音響・映像計画 映像企画・制作 開・閉会式出演者選定 式典総合練習会計画 	練習 リハーサル大会
	・競技会表彰式	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な考え方 実施上の留意点 	<ul style="list-style-type: none"> 表彰式計画 式次第 	<ul style="list-style-type: none"> 市町村との連絡調整 	
	・オープニングプログラム ・エンディングプログラム ・ファイナルステージ	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な考え方 構成イメージ 出演団体イメージ 	<ul style="list-style-type: none"> 構成内容 出演団体選定基準 映像プログラム検討 	<ul style="list-style-type: none"> 出演団体の募集・決定 映像制作 進行台本制作 練習計画 	
炬火関係	・炬火演出 ・炬火用具 ・炬火台 ・炬火イベント	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な考え方 炬火イベント基本方針 採火・集火方法 炬火用具・炬火台デザイン方針(公募の有無含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 炬火の入場、点火、分火、納火の演出 炬火用具・炬火台デザイン決定 炬火走者選定基準 	<ul style="list-style-type: none"> 炬火用具制作 炬火走者決定 	<ul style="list-style-type: none"> 炬火台整備 炬火イベント実施
会場整備	・会場整備	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な考え方 会場装飾 ゾーニング・動線 整備スケジュール 	<ul style="list-style-type: none"> 仮施設設計画 電気・給排水設備計画 概算整備費算出 	<ul style="list-style-type: none"> 仮施設設計詳細設計 電気配線・給排水管の設計 整備費算出 	<ul style="list-style-type: none"> 開・閉会式会場等の設営・管理・撤去
(2) 式典音楽に関すること(うち下線部は式典音楽部会の審議事項と想定)					
式典音楽	・使用曲 ・音楽隊編成 ・服飾 ・練習計画	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な考え方 音楽隊編成人数 音楽隊編成基準 使用曲の構想 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏形態検討 作・編曲者選定 使用曲制作、フルスコア作成 出演団体選定基準 楽器整備計画 式典音楽試奏会・検証会 	<ul style="list-style-type: none"> 指揮者・出演団体決定 使用曲録音会、使用曲集CD制作 フルスコア・パート譜・合唱譜印刷製本 服飾デザイン・試作 練習計画 	練習 服飾整備
(3) 式典演技に関すること(うち下線部は式典演技部会の審議事項と想定)					
式典演技	・演技振付 ・演技伴奏曲 ・演技用具・手具 ・出演団体 ・練習計画	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な考え方 出演団体イメージ 	<ul style="list-style-type: none"> 演技コンセプト 全体構成 振付師・伴奏曲作曲家選定 振付イメージ 演技伴奏曲イメージ音源制作、楽譜作成 出演団体の選定基準 	<ul style="list-style-type: none"> 出演団体決定 演技展開、振付制作 演技台本・マニュアル作成 演技伴奏曲制作 服飾等のデザイン・試作 練習計画 	練習 服飾整備

※先催県の例を基に作成。業務の進捗状況により変更の可能性があります。

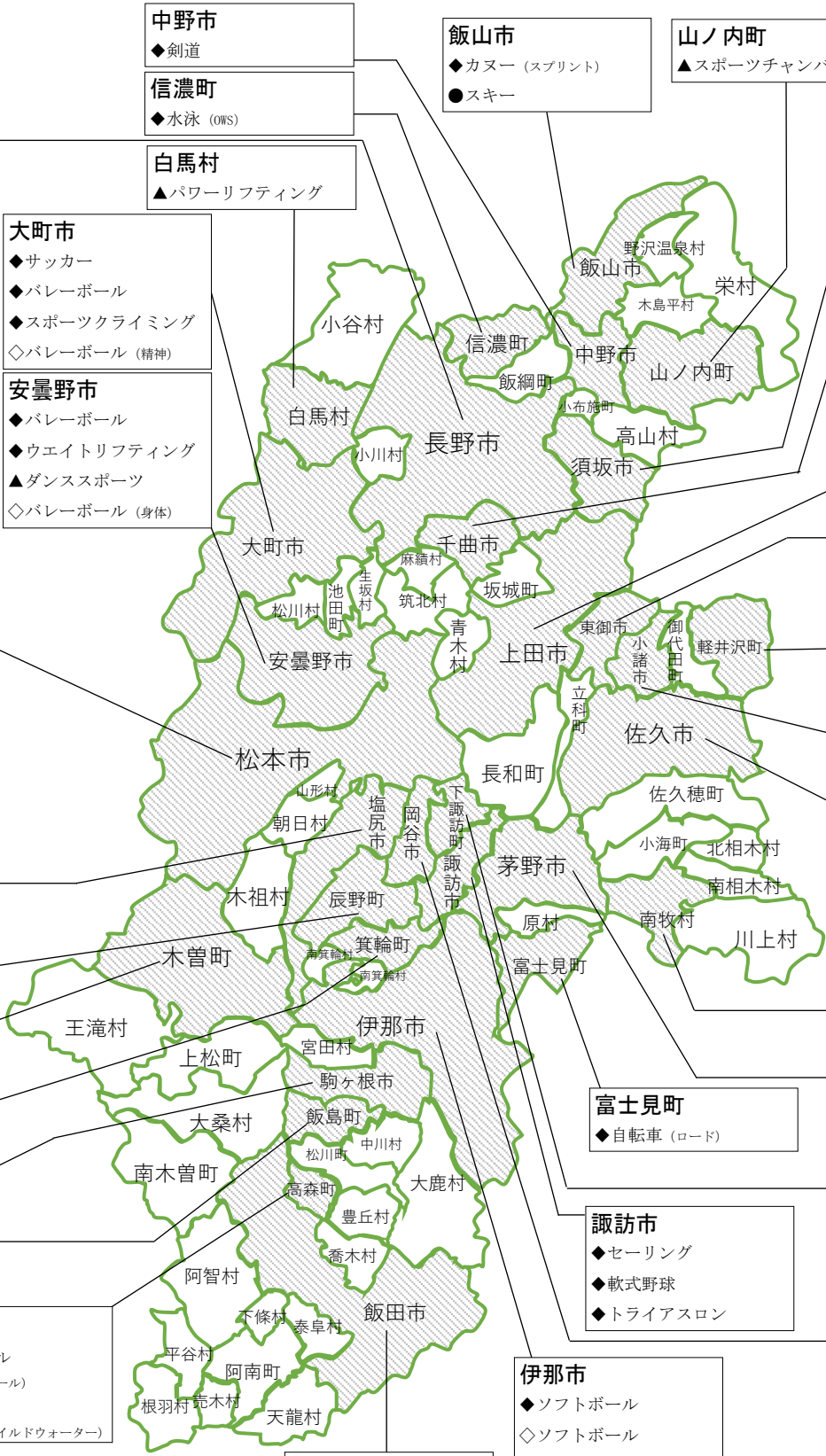
信州やまなみ国スポ・全障スポ 競技会場地市町村



長野県キャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

- ◆国スポ 正式競技（本大会） : 37競技/28市町村・県外1市町村
- 国スポ 正式競技（冬季大会） : 3競技/4市町村
- ▲国スポ 公開競技 : 6競技/6市町村
- 国スポ 特別競技 : 1競技/2市町村
- ◇全障スポ 正式競技 : 個人7競技・団体7競技/9市町村

- 長野市**
- ◆水泳
(競泳、飛込、水球、AS)
 - ◆サッカー
 - ◆体操(競技)
 - ◆バスケットボール
 - ◆ライフル射撃(CP)
 - ◆ボウリング
 - スケート
(スピード、フィギュア)
 - 高等学校野球(硬式)
 - ◇水泳
 - ◇ボウリング
 - ◇バスケットボール
 - ◇車いすバスケットボール
- 松本市**
【総合開・閉会式】
- ◆陸上競技
 - ◆サッカー
 - ◆テニス
 - ◆バレーボール
 - ◆自転車(トラック)
 - ◆軟式野球
 - ◆なぎなた
 - ◇陸上競技
 - ◇バレーボール(知的)
 - ◇サッカー
- 塩尻市**
- ◆バドミントン
 - ◆銃剣道
- 辰野町**
- ◆クレ射撃
- 木曾町**
- ◆相撲
- 箕輪町**
- ◆フェンシング
- 駒ヶ根市**
- ◆ホッケー
- 飯島町**
- ◆ホッケー



- 高森町**
- ◆バレーボール
(ビーチバレーボール)
 - ◆カヌー
(スラローム・ワイルドウォーター)

- 飯田市**
- ◆弓道
 - 高等学校野球(軟式)

- 伊那市**
- ◆ソフトボール
 - ◇ソフトボール
 - ◇グランドソフトボール
 - ◇フットソフトボール

- 県外開催
福井県福井市**
- ◆ライフル射撃(CP以外)

第82回国民スポーツ大会・
第27回全国障害者スポーツ大会
開催基本構想



令和5年5月

第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会

長野県準備委員会

目 次

はじめに	第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会 開催基本構想の策定に当たって	・・・ 1
第 1 章	国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会について	
1	国民スポーツ大会とは	・・・ 3
2	全国障害者スポーツ大会とは	・・・ 4
3	国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会のあゆみ	・・・ 5
4	長野県における大会開催の意義	・・・ 5
第 2 章	第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会 開催基本方針	
1	基本方針	・・・ 6
2	実施目標	・・・ 6
第 3 章	共通視点	・・・ 7
第 4 章	実施目標の実現に向けた取組	
1	スポーツで長野県を元気にする大会	・・・ 8
2	スポーツの振興を支える好循環を創出する大会	・・・ 8
3	スポーツで共生社会づくりを加速する大会	・・・ 9
4	スポーツの環境づくりを推進する大会	・・・ 10
5	スポーツが長野県のファンを増やす大会	・・・ 11
おわりに	「スポーツを通じた元気な長野県づくり」の実現に向けて	・・・ 12

はじめに 第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会

開催基本構想の策定に当たって

国民スポーツ大会は、国民体育大会（国体）の名称で、昭和 21 年（1946 年）の第 1 回大会以来、国内最大の国民スポーツの祭典として広く親しまれ、国民の健康増進と体力向上、地方スポーツの推進と地方文化の発展などに寄与してきました。

長野県では、昭和 53 年（1978 年）に「日本の屋根に手をつなぐ」をスローガンに、第 33 回国民体育大会「やまびこ国体」を、冬・夏・秋季の全シーズンを通じて同一県で行う完全国体として開催しました。

また、同年には、「さわやかに あたたかく ひたむきに」をスローガンに、第 14 回全国身体障害者スポーツ大会（やまびこ大会）を開催しました。

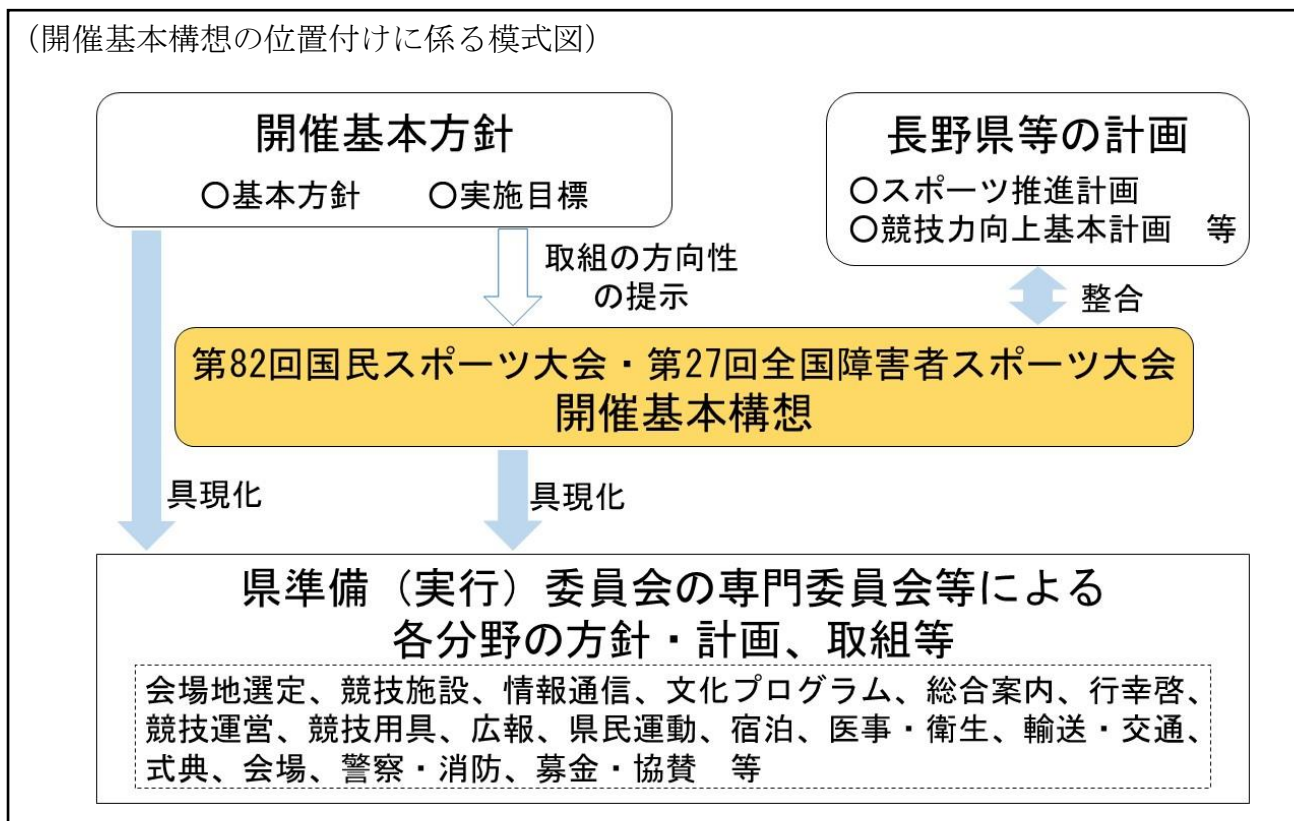
「やまびこ国体」「やまびこ大会」の成功は県民に自信と誇りをもたらし、本県のスポーツ振興の大きな礎となるとともに、スポーツの感動を世界に発信した平成 10 年（1998 年）開催の長野冬季オリンピック・パラリンピックの原動力にもなりました。

そして、前回開催から 50 年目、長野冬季オリンピック・パラリンピックから 30 年目の節目の年となる令和 10 年（2028 年）に、第 82 回国民スポーツ大会と第 27 回全国障害者スポーツ大会を長野県で開催します。

第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会を意義あるものとするためには、第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会長野県準備（実行）委員会（以下「県準備（実行）委員会」という）をはじめ、その構成団体や大会に関わる様々な人が、大会の目標を共有した上で、その実現のため、大会開催に向けた取組や開催気運を活用した取組などを進めていく必要があります。

そのため、この開催基本構想は、「第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会開催基本方針（平成 29 年 12 月 20 日第 1 回総会決定、令和 2 年 12 月 18 日第 4 回総会改正）」に基づき、実施目標の実現に向けた取組の方向性を明らかにするものです。

なお、構想の策定に際しては、「長野県スポーツ推進計画」^{※1}や「長野県競技力向上基本計画」^{※2}などと整合性を図るとともに、県準備（実行）委員会では、大会開催に係る各分野の審議・調査を行う専門委員会などにおいて、この構想を踏まえた方針や計画、取組を具現化させていくこととします。



※ この構想では、「障害」と「障がい」の2つの言葉を使用しています。

「全国障害者スポーツ大会」、「全国身体障害者スポーツ大会」、「全国知的障害者スポーツ大会」の固有の大会名称を表記する場合は「障害」を使用していますが、それ以外の場合は「障がい」を使用しています。

※1 スポーツ基本法において、国のスポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めるものと規定された「地方スポーツ推進計画」。また、「長野県総合5か年計画」及び「長野県教育振興基本計画」に対応するスポーツ分野の個別計画であり、今後のスポーツ振興のために必要な具体的施策を定めた推進計画。

※2 第82回国民スポーツ大会における目標「天皇杯及び皇后杯の獲得」の達成と大会終了後も持続可能な長野県の競技スポーツの振興を目指し、今後の具体的な取組を示した指針。

第1章 国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会について

1 国民スポーツ大会とは

国民スポーツ大会（国スポ）は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにすることを目的として、毎年開催される国内最大の国民スポーツの祭典です。

国民スポーツ大会には、「正式競技」をはじめ、「特別競技」、「公開競技」、「デモンストレーションスポーツ」があります。

第82回国民スポーツ大会における実施予定競技 令和5年5月時点

区 分	競 技 名
<p>正式競技（40 競技）</p> <p>都道府県対抗で実施され、全正式競技の合計得点により、男女総合成績第1位の都道府県に天皇杯が、女子総合成績第1位の都道府県に皇后杯が授与される。</p>	<p>[本大会]</p> <p>陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ローイング、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、クレール射撃、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン</p> <p>[冬季大会]</p> <p>スキー、スケート、アイスホッケー</p>
特別競技（1 競技）	高等学校野球
<p>公開競技（9 競技）</p> <p>競技の普及をはじめ、国民のスポーツ推進を図り、生涯スポーツ社会の実現に寄与するため、正式競技以外に、全国レベルの大会の規模で実施する競技。</p>	綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック、スポーツチャンバラ、ダンススポーツ
<p>デモンストレーションスポーツ</p> <p>地方スポーツの推進を図るため、生涯スポーツ社会の実現に寄与するという観点から、正式競技及び公開競技以外に、県内に居住している者を対象として実施する競技。</p>	(今後決定)

2 全国障害者スポーツ大会とは

全国障害者スポーツ大会（全障スポ）は、障がいのある選手が、競技等を通じてスポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的として、毎年開催される障がい者スポーツの全国的な祭典です。

全国障害者スポーツ大会には、「正式競技」と「オープン競技」があります。

第27回全国障害者スポーツ大会における実施予定競技 令和5年5月時点

区 分		競 技 名
正式競技（14 競技） 「全国障害者スポーツ大会競技規則」に定められた個人競技及び団体競技で、団体競技は都道府県・指定都市対抗で実施される。	個人競技 （7 競技）	陸上競技（身体・知的） 水泳（身体・知的） アーチェリー（身体） 卓球（身体・知的・精神） フライングディスク（身体・知的） ボウリング（知的） ボッチャ（身体）
	団体競技 （7 競技）	バスケットボール（知的） 車いすバスケットボール（身体） ソフトボール（知的） グラウンドソフトボール（身体） フットソフトボール（知的） バレーボール（身体・知的・精神） サッカー（知的）
オープン競技 広く障がい者の間にスポーツを普及する観点から有効と認められるものについて、あらかじめ主催者間で協議し実施する競技。		（今後決定）

3 国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会のあゆみ

国民スポーツ大会は、国民体育大会の名称で、戦後の混乱期の中で国民に勇気と希望を与えるため、昭和21年（1946年）に、京都を中心とした京阪神地域で第1回大会が開催されて以来、毎年、各都道府県の持ち回りで開催されています。

昭和23年（1948年）の第3回福岡県大会から都道府県対抗方式が確立し、天皇杯と皇后杯が創設されました。

昭和63年（1988年）の第43回京都府大会から2巡目に入り、全国を東地区（北海道・東北・関東）、中地区（北信越・東海・近畿）、西地区（中国・四国・九州）の3つに分けて輪番制で開催されています。

当初は、冬季、夏季、秋季の3会期で実施されていた国民体育大会は、平成18年（2006年）の第61回兵庫県大会から夏季大会と秋季大会が統合され、以降は冬季大会と本大会の2会期で開催されています。

なお、スポーツ基本法の一部を改正する法律（平成30年6月20日公布）により、国民体育大会は、令和6年（2024年）の第78回佐賀県大会から、国民スポーツ大会（国スポ）に改称されます。

全国障害者スポーツ大会は、昭和40年（1965年）から身体障がい者を対象に行われてきた「全国身体障害者スポーツ大会」と平成4年（1992年）から知的障がい者を対象に行われてきた「全国知的障害者スポーツ大会」を統合した大会として、平成13年（2001年）から、国民体育大会終了後に、国民体育大会と同じ開催地で開催されています。

4 長野県における大会開催の意義

国内最大の国民スポーツの祭典である国民スポーツ大会と、障がい者スポーツの全国的な祭典である全国障害者スポーツ大会を長野県で開催することは、県民に夢や希望を与えるとともに、スポーツに親しむ環境づくりのみならず、健康増進や地域の魅力向上にもつながります。

さらには、大会を通じて、障がいに対する理解を深める機会が生まれ、障がいのある人もない人も共に生きる長野県づくりにつながります。

また、大会には、県内外から多くの方々が訪れることから、開・閉会式や各地で開催される競技会、関連行事・イベントでのおもてなしなどを通じて、人々の交流の輪が広がるとともに、本県の魅力の全国への発信のほか、観光や経済活動へ効果が波及することが期待されます。

第2章 第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会

開催基本方針

次の基本方針と実施目標のもと、第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会を開催します。

1 基本方針

第82回国民スポーツ大会及び第27回全国障害者スポーツ大会は、全ての県民の元気と力を結集して、夢、勇気、感動などスポーツの持つ限りない力と、本県の多彩な魅力を発信する大会として開催します。

大会の開催に当たっては、大会運営の簡素化・効率化を図るとともに、大会終了後を見据え、より多くの県民が各々の関心や適性等に応じて「する」「みる」「ささえる」など様々な形でスポーツに参加できる文化の創造と、地域の魅力発信による経済の活性化等を通じて、「スポーツを通じた元気な長野県づくり」の実現を目指します。

2 実施目標

(1) “スポーツ”で長野県を元気にする大会

人生100年時代と言われる今、スポーツを健康に活かした取組を推進し、スポーツを通じた“健康長寿世界一の信州”の実現を目指すとともに、観光資源とスポーツ資源を融合させた地域活性化等にも取り組み、元気な長野県を推進する大会とします。

(2) “スポーツ”の振興を支える好循環を創出する大会

長野県の地で選手が育ち、その選手が指導者となって次世代の選手を育成するなど、将来にわたり本県のスポーツ振興を支える好循環の形成に努めるとともに、子どもたちが夢や希望を未来へとつなぐことができる大会とします。

(3) “スポーツ”で共生社会づくりを加速する大会

障がい者の社会参加の推進と社会の障がい理解を促進するとともに、障がいの有無にかかわらず、スポーツを通じた交流を拡大するなど、誰にでも「居場所」と「出番」があり、多様性を尊重する共生社会づくりを力強く後押しする大会とします。

(4) “スポーツ”の環境づくりを推進する大会

少子高齢化社会を迎え、地域ごとに求められるスポーツ施設に対する需要が変化していく中であって、将来にわたり安全で、適正なスポーツ施設環境を提供するとともに、誰もが生涯を通じて気軽にスポーツに親しめる環境づくりを推進する大会とします。

(5) “スポーツ”が長野県のファンを増やす大会

豊かな自然環境、美しい景観など数々の長野県の誇れる魅力を県民一人ひとりが見つけ直し、県内外に発信するとともに、全国から訪れる数多くの来県者を温かいおもてなしの心で迎え、一人でも多くの方に長野県のファンとなっただけの大会とします。

第3章 共通視点

大会開催や実施目標の実現に向けて取組を推進するに当たり、共通する基本的な視点として、次の7つを掲げます。

1 SDGs^{※3}を意識した取組の推進

SDGs 17の目標との関連付けなど、SDGsを意識した各種取組の推進

2 ゼロカーボンの推進

再生可能エネルギーの積極的な活用や公共交通機関の利用促進、エンカル消費^{※4}・食品ロス削減の推進など、「2050 ゼロカーボン」^{※5}の実現を踏まえた大会運営

3 大会運営のDX^{※6}

AI^{※7}・IoT^{※8}などのデジタル技術や先端技術の活用による大会運営のDXの推進

4 公正さや多様性・包摂性を踏まえた取組の推進

障がいの有無や年齢、性別、国籍などにかかわらず、公正さや多様性・包摂性を踏まえた各種取組の推進

5 信州の強みや地域の個性の活用

豊かな自然環境や特色ある歴史・伝統文化などの本県の強みや地域の個性の活用

6 長野冬季オリンピック・パラリンピックのレガシーを活かし未来へつなぐ大会

「1校1県応援運動（仮称）」・「1校1競技応援運動（仮称）」やボランティア活動の推進など、長野冬季オリンピック・パラリンピックのレガシーの活用

7 安全・安心・持続可能な大会運営

既存施設・設備を有効に活用した簡素で効率的な大会運営や、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた感染症対策などのリスクを想定した各種取組の推進

※3 2015年9月に国連持続可能な開発サミットで採択された「持続可能な開発のための2030年アジェンダ」に盛り込まれた17の目標と169のターゲット。

※4 持続可能な社会の実現のため、人・社会・環境・地域などに配慮した消費行動。

※5 2050年度までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすること。

※6 デジタルトランスフォーメーション。デジタル技術とデータを活用して、既存の業務プロセス等の改善を行い新たな価値を創出して新たな社会の仕組みに変革すること。

※7 人工知能。人間の言語を理解したり、論理的な推論や経験による学習を行ったりするコンピュータプログラムなど。

※8 あらゆる物がインターネットを通じてつながることによって実現する新たなサービス、ビジネスモデル、またはそれを可能とする技術の総称。

第4章 実施目標の実現に向けた取組

実施目標の実現を図るための主な取組について、5つの目標ごとに次のとおり示します。



1 スポーツで長野県を元気にする大会

(1) スポーツによる健康長寿世界一信州の実現

- 働く世代や子育て世代、シニアなどのライフステージに応じたスポーツ活動を促進し、県民の健康づくりにつなげます。
- 家庭や職場で簡単にできるスポーツを普及し、スポーツの習慣化の促進を図ります。
- スポーツを通じた健康づくり・体力づくりのプログラムを広く県民に提供します。

(2) スポーツが旅の目的となる観光地・地域づくり

- 山岳や河川・湖沼をはじめとする豊かな自然環境などの地域資源を活用したスポーツツーリズム^{※9}を推進します。
- 大会の競技会開催地をはじめ、県内各地におけるスポーツ大会や合宿の誘致促進を図ります。
- 個人の来県者が、気軽にスポーツに触れ、体験できるような仕組みづくりに努めます。
- 大会の競技会開催地が、選手がその地でプレーしたいと憧れるような、スポーツの「聖地」となることを目指します。



2 スポーツの振興を支える好循環を創出する大会

(1) 地域で育む未来のアスリート

- 本県開催の国スポをはじめ、将来世界の舞台で活躍する少年選手の計画的な発掘及び育成・強化に取り組みます。
- 子どもたちがスポーツへの夢や憧れを抱けるよう、県内で活動するプロスポーツ選手やトップアスリートとの交流機会の確保を図ります。
- 地域との連携の推進などにより、学校におけるスポーツ活動の充実を図ります。

(2) アスリートの人材確保

- 「長野県競技力向上対策本部」^{※10}を中心に、選手確保や練習環境整備などの取組を推進します。

^{※9} プロスポーツの観戦者やスポーツイベントの参加者と開催地周辺の観光とを融合させ、交流人口の拡大や地域経済への波及効果などを目指す取組。

^{※10} スポーツ協会や市町村、関係競技団体、学校関係団体、経済関係団体などで構成し、競技力向上に関する総合的な事項の決定や評価、検証を行う。

- 企業等のアスリート雇用に対する理解の促進を図るなど、選手の県内就職や競技活動を継続できる環境づくりを進めます。
- 本県開催の国スポで活躍が期待できる、県内の有望選手を対象とした育成・強化に取り組みます。

(3) 障がい者スポーツ選手の発掘及び育成

- 本県開催の全障スポに向けて、選手をはじめ、選手を支える指導者・スタッフの発掘及び育成に取り組みます。
- 特別支援学校をはじめとした特別支援教育の場において、障がい者スポーツ体験会を実施し、選手の発掘につなげます。
- 障がい者スポーツ体験会への参加などを通じて、医療や福祉の現場の職員による障がい者スポーツの裾野の拡大を図ります。
- 全障スポなどの全国大会やパラリンピックなどの国際大会への出場を視野に入れて、選手の育成・強化に取り組みます。

(4) スポーツを支える人材の育成

- 研修会・講習会への派遣や公認指導者資格取得の促進など、指導者の育成・確保や競技役員等の養成に取り組むとともに、活躍の場の拡大及び充実を図ります。
- 選手育成や指導者養成、競技普及などを行う競技団体の基盤強化及び活動の充実を図ります。
- スポーツ推進委員^{※11}の資質向上やパラスポーツ指導員^{※12}の養成を行うとともに、大会の競技会の準備・運営への協力を得るなど、その活動の充実を図ります。
- 大会の開・閉会式や各競技会等の運営を支えるボランティアの募集・養成を行うなど、スポーツボランティアの育成や活動支援を行います。



3 スポーツで共生社会づくりを加速する大会

(1) 国スポ・全障スポの一体的な開催

- 両大会共通の方針や計画等を策定するなど、両大会の開催準備や運営を一体的に進めていきます。
- 両大会の広報や関連イベントなどを一体的に行う中で、両大会の選手や関係者の交流を促進します。
- 競技会場や宿泊・輸送の場面などにおいて、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した大会運営に努めます。

^{※11} 市町村におけるスポーツ推進のための実技の指導その他スポーツに関する指導及び助言、事業の企画立案や連絡調整、地域住民や行政、スポーツ団体等の間を円滑に取り持つ等のコーディネーターとして、市町村教育委員会等が委嘱し、地域スポーツ推進の中核的な役割を担う者。

^{※12} 公益財団法人日本パラスポーツ協会及び加盟団体等が、公認パラスポーツ指導者制度に基づき資格認定する指導者。

- 老若男女すべての人が、障がいの有無にかかわらず、大会の開催準備や運営などに参加しやすい環境づくりに努めます。

(2) 障がい者スポーツと一般スポーツの融合の推進

- 障がい者スポーツの普及と、障がい者が身近な地域でスポーツを楽しめる環境づくりを進めます。
- ボッチャ競技大会「パラウェーブNAGANOカップ」の開催など、障がいの有無にかかわらず、誰もが一緒に楽しめるスポーツ機会の拡大を図ります。
- 一般スポーツ指導者と障がい者スポーツ指導者の交流に努め、障がい者スポーツの競技力向上などにつなげます。
- スポーツ体験会などを通じて、県民がオリンピック・パラリンピック代表選手と交流できるような機会の確保を図ります。

(3) スポーツで多様性を尊重する共生社会づくり

- 大会におけるデモンストラーションスポーツやオープン競技の実施等により、障がいの有無や年齢、性別、国籍などにかかわらず、県民が気軽にスポーツに参加できる機会や方策の拡大を図ります。
- スポーツに関心のある障がい者に対して指導者を紹介するなど、障がいの有無にかかわらず、子どもたちがトップアスリートになる夢を抱けるような環境づくりに努めます。
- 障がい者スポーツの紹介や楽しみ方の情報発信を行い、障がい者スポーツに対する理解を促進します。



4 スポーツの環境づくりを推進する大会

(1) いつでも・どこでもスポーツに取り組める環境づくり

- 県民が広く参加できるスポーツ教室やスポーツイベントを開催します。
- 県民一人ひとりが自分の体力や目的に応じて、様々な形でスポーツに親しむような「1県民1スポーツ運動（仮称）」を提唱し、普及を図ります。
- 学校等の体育施設を地域に開放するなど、身近な場所でスポーツができる環境づくりを進めます。
- 大会開催に必要となる競技施設や競技用具の整備などを通じて、スポーツ環境の充実に努めます。
- 身近な地域においてスポーツに親しめるよう、地域スポーツの担い手となる総合型地域スポーツクラブ^{※13}やスポーツ少年団^{※14}の活動の充実に努めます。

※13 「誰でも」「いつでも」「世代をこえて」「好きなレベルで」「いろいろなスポーツ」を楽しむことのできる地域住民が主体的に運営する総合的なスポーツクラブのこと。

※14 地域社会においてスポーツ活動を中心に組織的な活動をしている少年のスポーツ・クラブで、日本スポーツ少年団に登録し、その認定を受けている。

- ニュースポーツ^{※15}をはじめ、多様なスポーツに親しめる環境づくりを進めます。

(2) 開催地実施競技種目の普及

- 大会で実施する競技がその地域に根付くよう、競技会開催地における選手育成やトップアスリートとの交流機会の確保を図ります。
- 大会において競技会を開催する施設や運営の経験などを活かして、競技会開催地における定期的な競技会の開催を目指します。



5 スポーツが長野県のファンを増やす大会

(1) 県民参加のおもてなし

- 多くの県民が大会に参加したくなるよう、様々な媒体を活用した効果的な広報活動を実施します。
- 多くの県民が県内各地で大会に参加できるよう、できるだけ多くの市町村における競技会の開催を目指します。
- 大会において、学校単位での競技会の観戦や、県内外選手の応援の実施を目指します。
- ごみゼロ運動や花いっぱい運動など、多くの県民が様々な形で自発的に参加する、大会の県民運動を展開します。
- 障がいの有無や年齢、性別、国籍などにかかわらず、大会に参加する誰もが満足できるよう、温かいおもてなしに努めます。

(2) 大会を通じた長野県の魅力発信

- 参加者に対する本県産の食材を取り入れた郷土色豊かな食事の提供など、地域資源を活用したおもてなしに努めます。
- 来県者の県内周遊につながるよう、観光ルートの紹介などの情報発信を行います。
- オリンピック・パラリンピック開催県のレガシー、移住先としての高いポテンシャル、四季を通じた豊かな自然環境など、本県ならではの魅力を積極的にPRします。
- 文化芸術に係る展示会や音楽会、郷土の祭りに係る事業など、競技観戦以外にも楽しめる文化プログラム^{※16}を展開します。
- 来県者との交流や県内外への本県の魅力発信を通じて、県民による信州の多彩な魅力の再発見を促します。

^{※15} 年齢や性別、技術、体力、ハンディキャップの有無にかかわらず、誰もが手軽に楽しむことができる比較的新しいスポーツ。

^{※16} 国民スポーツ大会の開催行事の1つであり、スポーツに関連する文化芸術事業や、開催県の文化芸術を紹介する事業などを実施する。

おわりに 「スポーツを通じた元気な長野県づくり」の実現に向けて

令和 10 年（2028 年）の第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会は、長野県にとって 50 年ぶりの開催となる大会です。

県準備（実行）委員会として、この大会を成功に導くことはもちろんのこと、大会に関わる全ての人々が、信州の山脈のようにつらなり、手を取り合って、未来へとつながる大会とすることを目指します。

大会を決して一過性のイベントに終わらせることなく、その後の長野県の発展につなげていくことが重要であり、県民がスポーツに参加できる文化の創造や地域の魅力発信による経済の活性化などを通じた「スポーツを通じた元気な長野県づくり」の実現に向け、オール信州の体制で取り組んでいきます。

第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会 式典基本方針

第82回国民スポーツ大会（以下「国スポ」という。）及び第27回全国障害者スポーツ大会（以下「全障スポ」という。）の式典は、国民体育大会開催基準要項（以下「基準要項」という。）、基準要項細則及び全国障害者スポーツ大会開催基準要綱並びに第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会開催基本方針を踏まえ、「行こう。それぞれの頂へ。」のスローガンのもと、「信州やまなみ国スポ・全障スポ」にふさわしい式典とする。

1 基本理念

- (1) 式典に関わるすべての人が、自ら思い描く頂（いただき）を目指し、様々な場面で光り輝くことで、全国の参加者が夢と感動を共有できる式典とする。
- (2) 簡素で効率的な運営を基本としながら、ゼロカーボン社会への貢献とエンターテインメントの創出を追求し、創意工夫を凝らした式典とする。
- (3) 来県者を温かいおもてなしの心で迎え、美しい自然や滋味豊かな食、悠久の歴史と文化など長野県の魅力を全国に発信する式典とする。

2 式典の構成

式典は、国スポ・全障スポ（以下「両大会」という。）の開・閉会式、両大会の各競技会表彰式及び大会旗・炬火イベントで構成する。

- (1) 両大会の開・閉会式
国スポの総合開・閉会式は、基準要項第20項に規定する式典及び集団演技並びに役員・選手団入退場で構成する。
全障スポの開・閉会式は、国スポに準じた構成とする。
- (2) 両大会の各競技会表彰式
国スポの各競技会表彰式は、基準要項細則第9項に規定する式典で構成する。
全障スポの各競技会表彰式は、国スポに準じた構成とする。
- (3) 大会旗・炬火イベント
大会旗・炬火イベントは、開催に向けた気運を高める行事及び両大会の開・閉会式で構成する。

3 式典の企画・運営

- (1) 両大会の開・閉会式
両大会の開・閉会式は、第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会長野県準備（実行）委員会（以下「県準備（実行）委員会」という。）が企画し、第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会長野県実施本部（仮称）が運営に当たる。

(2) 両大会の各競技会表彰式

国スポの各競技会表彰式は、県準備（実行）委員会が別に定める要項に基づき、会場
地市町村準備（実行）委員会が関係競技団体と協議の上、企画・運営に当たる。

全障スポの各競技会表彰式は、県準備（実行）委員会が会場地市町村準備（実行）委員
会及び競技運営主管団体と協議の上、企画し、会場地市町村準備（実行）委員会及び競
技運営主管団体が運営にあたる。

(3) 大会旗・炬火イベント

大会旗・炬火イベントについては、県準備（実行）委員会が別に定める要項に基づく
ものとする。

審議事項

第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会長野県準備委員会
式典・会場専門委員会部会設置要項（案）

（趣旨）

第 1 条 この要項は、第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会長野県準備委員会専門委員会規程第 5 条の規定に基づき、式典・会場専門委員会（以下「専門委員会」という。）の部会設置及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（部会の設置等）

第 2 条 専門委員会に部会を設置し、式典・会場の基本方針や基本計画の策定等に向けた検討を行うものとする。

2 部会の名称及び専門委員会からの付託事項は、別表のとおりとする。ただし、定めのない事項については、その都度、必要な事項を定めるものとする。

（部会の役員）

第 3 条 部会に次の役員を置く。

(1) 部会長 1 名

(2) 副部会長 1 名

2 役員は、第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会長野県準備委員会会長が委嘱する。

3 部会長は、部会を代表し、会務を総理する。

4 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故あるとき、又は部会長が欠けたときは、その職務を代行する。

（任期）

第 4 条 部会の委員（以下「委員」という。）の任期は、部会の任務が達成されたときまでとする。

2 前項の規定にかかわらず、委員に委嘱された者が、その属する機関又は団体において委嘱された時の役職を離れたときは、当該委員の任期は、当該役職にあった日までとする。

3 前項の規定により委員が欠けたときは、当該委員の属していた機関又は団体において当該委員の後任となった者を委員に委嘱するものとする。

（会議）

第 5 条 部会は、部会長が招集し、部会長が議長となる。

2 部会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 部会長は、やむを得ないと認められる事項又は軽易な事項については、書面による表決を求め、これをもって部会に代えることができる。

4 部会は、付託事項の審議結果を専門委員会に報告する。

5 部会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

（委任）

第 6 条 この要項に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が専門委員会委員長の承認を得て別に定める。

附 則

この要項は、令和5年 月 日から施行する。

別表（第2条関係）

部会の名称	付託事項
式典運営部会	○ 開・閉会式等の企画及び運営に関する事。○ 大会旗・炬火リレーに関する事。○ 開・閉会式等の会場の管理に関する事。○ 他の部会に属さない事項に関する事。
式典音楽部会	○ 式典音楽に関する事。
式典演技部会	○ 式典演技に関する事。

式典・会場専門委員会 部会の設置について

1 部会の名称及び想定される主な役割

(1) 役割の共通事項

- ・事務局（委託業者）が作成した式典の基本的な考え方、実施方法、出演者の選定基準等の案について審議し、専門委員会に報告する。
- ・式典運営、音楽及び演技の各分野で想定される審議項目について、事務局（委託業者）が作成した案に対して助言する。
- ・式典の出演団体等の募集・選定に係る助言、団体等への働きかけ支援を行う。

(2) 各部会の役割

部会名称	役割	
	審議項目	想定される主な内容
式典運営	①式典運営	開・閉会式の基本的な考え方、式次第、選手団参集範囲、役員・選手団入退場計画、開・閉会式出演者選定方針 等
	②OP・EP等※	基本的な考え方、構成内容、出演団体選定基準、映像プログラム、練習計画 等
	③競技会表彰式	基本的な考え方、式次第 等
	④炬火関係	炬火イベントの基本方針、炬火用具・炬火台デザイン方針、炬火の採火・集火の方法、炬火走者選定基準、炬火入場・点火・納火・分火の演出 等
	⑤会場整備	基本的な考え方、ゾーニング・動線、会場装飾、整備スケジュール 等
式典音楽	式典音楽	基本的な考え方、使用曲構想、音楽隊編成基準、演奏形態、作・編曲者選定基準、出演団体選定基準、服飾デザイン、試奏会、練習計画 等
式典演技	式典演技	基本的な考え方、演技コンセプト、振付師・伴奏曲作曲家選定、振付イメージ、演技伴奏曲、出演団体選定基準、服飾デザイン、練習計画 等

※）オープニングプログラム（OP）、エンディングプログラム（EP）及びファイナルステージをいう。

2 部会委員の選定の考え方

(1) 基本的な考え方

- ・専門委員会委員の所属団体を中心に選定する
- ・部会長からの推薦を軸に、実務者を中心とした構成とする
- ・機動的な組織体制とするため、委員数は各部会4～5名程度とする

(2) 各部会の委員の分野

部会	委員の分野
式典運営	学識経験者、スポーツ
式典音楽	吹奏楽、合唱
式典演技	演劇、芸能、文化

式典・会場に係る今後のスケジュール

	検討内容	令和6~7年度 (開催4~3年前)	令和8年度 (開催2年前)	令和9年度 (開催1年前)	令和10年度 (開催年)
全体計画	・式典に係る計画等	式典基本計画	式典実施計画	式典実施要項	式典総合練習会(国スポ本大会の1か月前)・総合リハーサル 信州やまなみ国スポ・全障スポ開催
	・開・閉会式会場整備に係る計画等	会場整備基本計画	会場整備基本設計	会場整備実施設計	
(1) 式典運営に関すること(うち下線部は式典運営部会の審議事項と想定)					
式典運営	・開・閉会式運営 ・スケジュール ・開・閉会式出演者 ・総合練習会計画	<ul style="list-style-type: none"> 式典テーマ 式典全体の基本的な考え方 式次第案 関係機関等へのヒアリング 専門委員会委員先催県視察 	<ul style="list-style-type: none"> 全体スケジュール 参加者スケジュール 式典実施本部体制 掲揚旗計画 会場配置 動線計画 選手団参集範囲 役員・選手団入退場計画 荒天時計画 開・閉会式出演者選定方針(アウガ、司会者、補助員等) 	<ul style="list-style-type: none"> 通信連絡システム計画 式典ステージ配置 音響・映像システム計画 音響・映像計画 映像企画・制作 開・閉会式出演者選定 式典総合練習会計画 	練習 リハーサル大会 練習 練習
	・競技会表彰式	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な考え方 実施上の留意点 	<ul style="list-style-type: none"> 表彰式計画 式次第 	<ul style="list-style-type: none"> 市町村との連絡調整 	
	・オープニングプログラム ・エンディングプログラム ・ファイナルステージ	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な考え方 構成イメージ 出演団体イメージ 	<ul style="list-style-type: none"> 構成内容 出演団体選定基準 映像プログラム検討 	<ul style="list-style-type: none"> 出演団体の募集・決定 映像制作 進行台本制作 練習計画 	
炬火関係	<ul style="list-style-type: none"> 炬火演出 炬火用具 炬火台 炬火イベント 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な考え方 炬火イベント基本方針 採火・集火方法 炬火用具・炬火台デザイン方針(公募の有無含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 炬火の入場、点火、分火、納火の演出 炬火用具・炬火台デザイン決定 炬火走者選定基準 	<ul style="list-style-type: none"> 炬火用具制作 炬火走者決定 	<ul style="list-style-type: none"> 炬火台整備 炬火イベント実施
会場整備	・会場整備	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な考え方 会場装飾 ゾーニング・動線 整備スケジュール 	<ul style="list-style-type: none"> 仮施設設計画 電気・給排水設備計画 概算整備費算出 	<ul style="list-style-type: none"> 仮施設設計詳細設計 電気配線・給排水管の設計 整備費算出 	<ul style="list-style-type: none"> 開・閉会式会場等の設営・管理・撤去
(2) 式典音楽に関すること(うち下線部は式典音楽部会の審議事項と想定)					
式典音楽	<ul style="list-style-type: none"> 使用曲 音楽隊編成 服飾 練習計画 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な考え方 音楽隊編成人数 音楽隊編成基準 使用曲の構想 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏形態検討 作・編曲者選定 使用曲制作、フルスコア作成 出演団体選定基準 楽器整備計画 式典音楽試奏会・検証会 	<ul style="list-style-type: none"> 指揮者・出演団体決定 使用曲録音会、使用曲集CD制作 フルスコア・パート譜・合唱譜印刷製本 服飾デザイン・試作 練習計画 	練習 服飾整備
(3) 式典演技に関すること(うち下線部は式典演技部会の審議事項と想定)					
式典演技	<ul style="list-style-type: none"> 演技振付 演技伴奏曲 演技用具・手具 出演団体 練習計画 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な考え方 出演団体イメージ 	<ul style="list-style-type: none"> 演技コンセプト 全体構成 振付師・伴奏曲作曲家選定 振付イメージ 演技伴奏曲イメージ音源制作、楽譜作成 出演団体の選定基準 	<ul style="list-style-type: none"> 出演団体決定 演技展開、振付制作 演技台本・マニュアル作成 演技伴奏曲制作 服飾等のデザイン・試作 練習計画 	練習 服飾整備

※先催県の例を基に作成。業務の進捗状況により変更の可能性がります。